

文部科学省 令和6年度「大学等を通じたキャリア形成支援による幼児教育の「職」の魅力向上・発信事業（「職」の魅力向上と人材確保の好循環を生み出すモデル創出事業）」

地元で「学ぶ・続ける」幼児教育
ーライフステージに合わせたアプローチー

事業成果報告書

令和7年1月

和洋女子大学
人文学部 こども発達学科

目次

第1章 事業全体概要 5

本事業に取り組むにあたっての課題背景

本事業の目的

中学生・高校生・大学生を対象とした web アンケート調査

第2章 各取り組みの実施内容・成果 13

①小中高生を対象とした職の魅力発信 13

取組 A 保育体験等の実施、幼児教育の重要性に関する講演

A1 特設 LP による幼児教育の職の魅力発信

A2 高校での授業（出前授業）による職の魅力発信

A3 大学での授業（体験授業）による職の魅力発信

取組 B オープンキャンパスなどを活用した小中高生向け模擬授業や個別相談

B1 オープンキャンパスを通じた職の魅力発信

取組 C 養成校生、現職教諭等との多層型交流の機会の設定

C1 多層型交流による保育実践ワークショップ

②養成校生を対象としたキャリア形成支援 25

取組 D OB/OG などとの交流会

D1 ロールモデル（若手 OG）との交流

D2 ロールモデル（子育て中の OG）との交流

取組 E 適切な職業紹介事業などの普及啓発

E1 進路支援センターを中心としたキャリア形成支援

取組 F 周辺幼稚園等からの PR 機会の設定など、自治体を実施する人材確保施策（マッチング、UIJ ターン等）と連携したキャリア支援

F1 自治体と連携した就職マッチング・プラットフォーム形成の試み

取組 G 幼児教育施設や幼児教育センター、他大学等と連携した効果的なカリキュラムの開発

G1 幼児教育施設と連携したカリキュラム①初年次

G2 幼児教育施設と連携したカリキュラム②大学での学び

G3 幼児教育施設と連携したカリキュラム③現場での学び

G4 地元の親子を対象とした実践カリキュラム

G5 地元自治体と連携した実践体験

取組 H 複数園での実習の推奨	
H1 進路を見据えた複数園での実習経験の共有	
取組 I 養成校生が自ら幼児教育の「職」の魅力を考え、発信する取組	
I1 高校生への学びの魅力発信	
I2 地域の子どもへの学びの魅力発信	
③ 現職教諭・離職者等を対象としたキャリア形成支援.....	51
取組 J 若手教諭に向けたホームカミングデーの実施や幼児教育の専門的知見に基づく 相談の対応	
J1 学びの場の提供：子育て世代へのキャリア支援	
J2 学びの場の提供：若手へのキャリア支援	
取組 K 体系的な現職研修の機会の確保	
K1 地元自治体と連携した幼児教育研修プログラム	
K2 地元自治体と連携した学び直しプログラム	
第3章 事業全体のまとめ.....	61
事業全体スケジュール	
事業全体の成果	
事業全体から見えてきた課題	
今後の展開	
その他資料等	
引用・参考文献	
参考資料	

第1章 事業全体概要

本事業に関連する課題の背景

本事業は、“地域における幼児教育の持続可能な枠組み”を構築し、各ライフステージに応じて“学ぶ・続ける”リソースの提供を目的とする。しかし、この目的を達成するには、いくつかの課題が存在する。

まず、和洋女子大学こども発達学科は2008年の設立以来、地域における熟練した幼児教育者の育成において重要な役割を果たしてきた。地元での就職率は約90%、保育関連職への就職率は80～100%と高い実績を誇っている。しかし、近年、これらの成果を持続可能なものとするための課題が顕在化している。

具体的には、幼児教育に対する社会的イメージの影響により進路を変更する高校生や、実践経験不足によるプレッシャーや不安などを理由に幼児教育以外の道を選ぶ養成校生が増えつつある。幼児教育への就職を後押しするには、実習以外の実践経験を積む機会を提供し、感動体験を蓄積することで、就職後のイメージを明確に持てるようにすることが求められる。また、就職後も体系的に学び続ける機会の保障やライフステージの変化による離職への対応は大きな課題である。

このような状況を踏まえると、従来の大学単独の取り組みでは限界があり、地元にも根ざした大学を拠点とし、自治体、幼稚園、地域社会との連携を強化することが必要である。ライフステージに応じて学びを継続的に支援する体制の確立が急務である。

本事業の目的

本事業の目的は、一定数の生徒・養成校生・現職者が幼児教育から離れていく理由を明らかにし、ライフステージごとの課題を把握し、その情熱を再燃させる方策を明らかにすることである。この目的を達成するためには、養成校生、現職者、一般就職・離職者、さらには小中高生を含む幅広い層に対してアプローチを行う必要がある。

具体的には、養成校入学前の段階（小中学生）では、幼児教育への興味や関心を高めるための効果的な取り組みを明らかにする。養成校入学の段階（高校生）では、幼児教育を志す生徒が求める体験や情報（適切な発信方法を含む）を把握する。

養成校で学ぶ段階（大学生）では、幼児教育への興味・関心を維持し就職に繋げていくために、どのような方策が効果的かを多様な取り組みから明らかにする。

養成校卒業以降の段階（現職者）では、安定したキャリア形成のために、初任・中堅・管理職などキャリア段階別に必要な専門性と地域支援を把握する。

加えて、一般就職・離職者においては、幼児教育領域への就職・再就職を促進するための効果的支援策を明らかにする。これには、職場復帰をスムーズに行えるようなネットワークの構築や、継続的な学びを可能にするリソースの提供が含まれる。

これらの取り組みにより、地元での幼児教育者の育成とキャリア形成の維持を図り、幼児教育人材のライフステージごとに最適なアプローチを検証し、持続可能な支援体制の構築を目指す。

なお、本事業では幼児教育の「職」の魅力向上・発信の方法として、web 上の特設ページを中心とした広範囲への発信と、地元でのライフステージごとの様々な取り組みによる対面の発信の両方を企画・実施した。

以下では、これらの発信の前提となる中学生から大学生を対象とした web アンケートについて報告する。

中学生・高校生・大学生を対象とした web アンケート調査

(大神 優子)

1.調査目的

幼稚園教諭や保育士等の保育職は、幼少期には「なりたい職業」として上位にランクインしている。また、中学校の職場体験での感想も好意的なものが多い。にもかかわらず、養成校に進学する段階や、養成校を卒業する段階で、一定数が当初の保育職からの希望を変更している現状がある。

本調査では、幼児教育の「職」の魅力を発信するのに先立ち、こうした進路変更の時期や理由を明らかにし、効果的な情報発信に繋げることを目的として web アンケートを実施した。

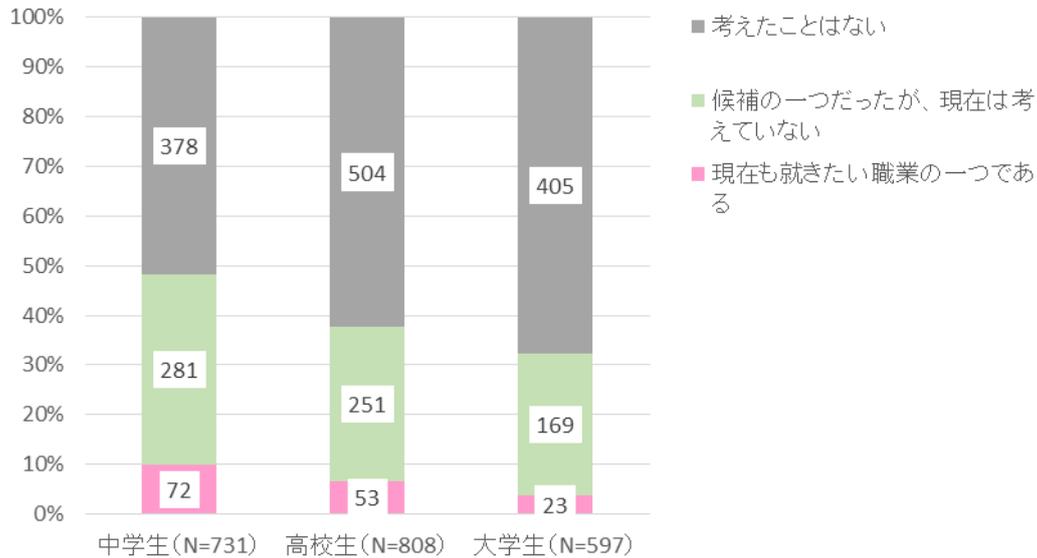
2.方法

全国の Studyplus ユーザー（女子中学生・高校生・大学生）に対し、2024年7月20日～8月5日の期間に web アンケートを配信した。Studyplus は大学の受験を控えた高校生を中心として広く利用されている学習支援プラットフォーム（基本は無料）であり、中学生・大学生にも利用されている。中間試験が終了して本格的に進路を考え始める時期の 2 週間を配信期間とし、配信数 980,384 件に対し、2,136 件の回答を得た（回答率 0.21%）。なお、アンケート項目の一部に「幼稚園教諭や保育士は、指定の大学等で必要な単位を修得することで得られる免許・資格です。このことを知っていましたか」等の啓蒙項目を組み込み、アンケート自体も魅力発信の一部として位置づけた。

3.主な結果

3-1.進路別対象者

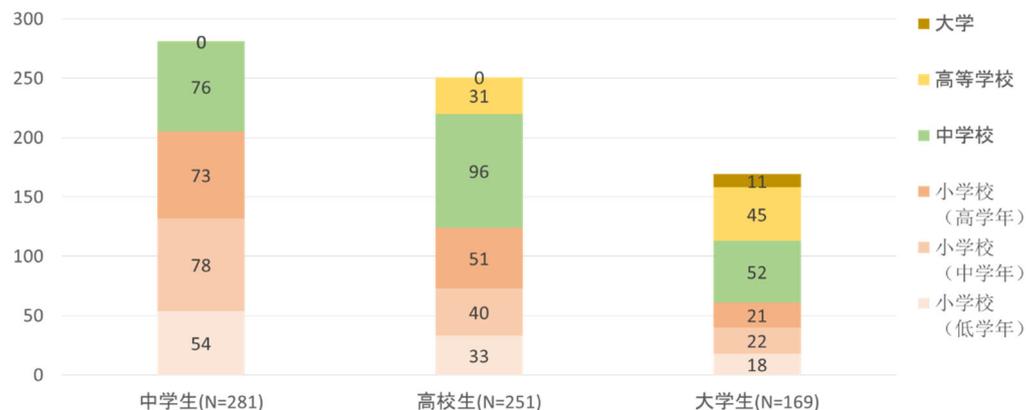
就きたい職業として「幼稚園教諭・保育士」を考えたことはあるかを尋ねた結果を、下図に示す（選択人数）。



調査時点現在で保育職を目指している層は1割に満たなかった。ただし、過去に候補にしていた層を合わせると、もっとも少ない大学生でも30%以上、中学生では50%近くへのぼる。今後の幼児教育の人材確保のためには、志望し続けている層はもちろん、進路を変更した層への働きかけが重要であることが明らかとなった。

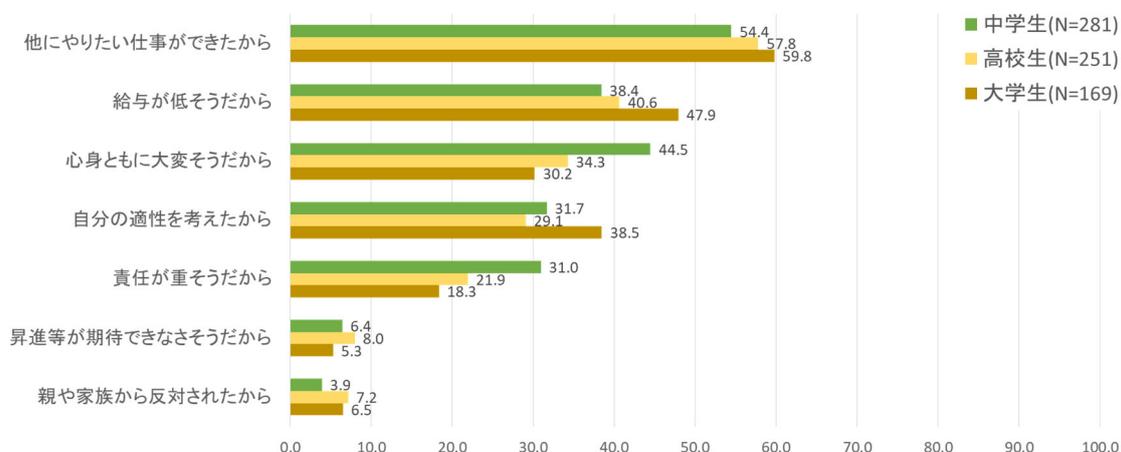
3-2.進路変更の時期とその理由

「候補の一つだったが今は考えていない」と回答した進路変更群に、「幼稚園教諭・保育士」の職から気持ちが離れた時期を尋ねた結果を以下に示す。



中学校・高校が比較的多く、幼少期の経験をもとにした「憧れ」から具体的に進路を考える始める時期に変更があったと考えられる。言い換えれば、この時期にあわせて職の魅力発信を行う必要がある。

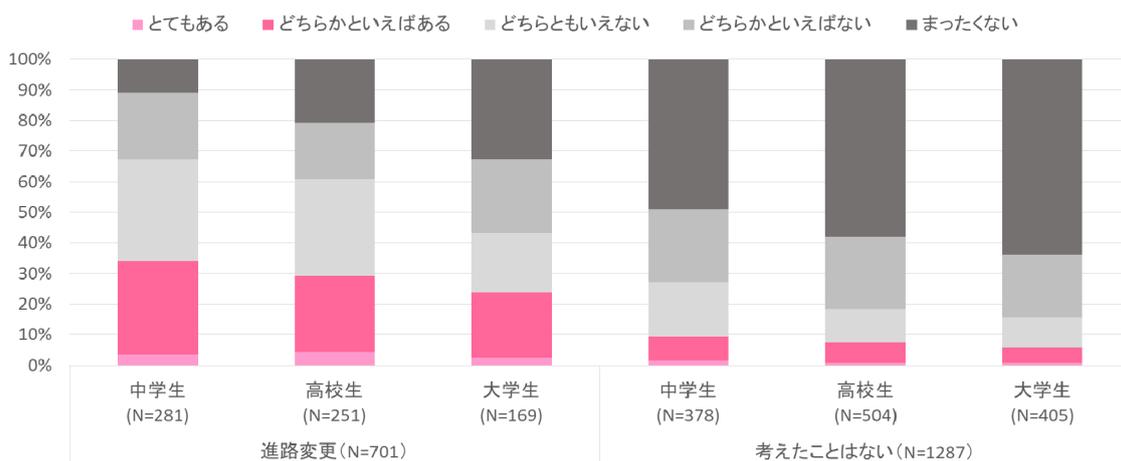
さらに、進路を変更した理由を尋ねた結果を以下に示す（複数選択可、選択者の割合）。



中学生～大学生まで共通してもっとも多かったのは「他にやりたい仕事があったから」というポジティブな理由だったが、次いでネガティブな理由が続いた。中学生では「心身ともに大変そう」「責任が重そう」というイメージで回答している傾向があった。一方、高校生・大学生になるとイメージだけではなく、「給与が低そう」という具体的な待遇面が重視されていた。

3-3.待遇改善の影響：再び目指す可能性

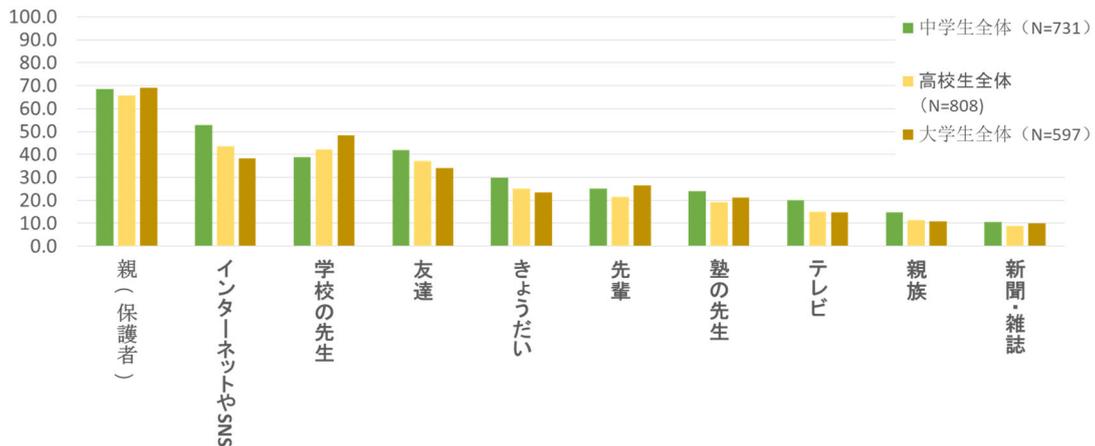
現在も保育職が選択肢にある群以外の2群に、「働き方改革や処遇改善」が進んだ場合、(再び)「幼稚園教諭・保育士」を目指す可能性があるかを尋ねた。とてもある～まったくないまでの選択割合を以下に示す。



中学生～大学生まで共通して、これまで保育職を目指したことがない層では、働き方や待遇が改善されてもその効果は限定的であった。しかし、過去に目指していたことがある進路変更群では、待遇改善等によっては3割前後が再び目指す可能性があるとして回答していた。したがって、こうした情報を積極的に発信していくことが人材確保の点で有効であると考えられる。

3-4.進路に関する情報源

進路（進学先や将来の職業）を考える上で参考にしたり影響を受けたりするものについて尋ねた結果を以下に示す（複数選択可、選択者の割合）。



中学生～大学生まで共通して親（保護者）の影響が大きいことが伺える。また、インターネットや SNS、学校の先生の割合も比較的高かった。つまり、生徒・学生自身だけではなく、保護者や学校教員に対しても、あわせて幼児教育の職の魅力を伝えていくことや、web上の情報発信が効果的であると考えられる。

なお、保育職への進路希望者は、途中で進路を変更した群や、最初から志望していなかった群に比べて、地元での進学を希望する割合が高かった。広範囲への情報発信とあわせて、地域連携でのアピールが重要と考える。

以上の結果を踏まえて、待遇面を含む情報発信を行う特設ページを開設し、地域でのイベントをはじめ、様々な取組を実施した。詳細は第2章に示す。

第2章 各取組の実施内容及び成果

①小中高生を対象とした職の魅力発信

取組 A 保育体験等の実施、幼児教育の重要性に関する講演

取組名：A1【特設 LP による幼児教育の職の魅力発信】

(上村 明)

実施時期：2024 年 9 月～ 2025 年 1 月

概要（取組内容及び実施体制）

本取り組みは、特設ランディングページ（以下、LP）を開設し、幼児教育の魅力と職業への理解を深める視覚情報を効果的に発信し普及・啓発することを目的とした。

この特設 LP に掲載された視覚情報（動画含む）は、事業全体を通じて得られたデータをもとに作成した。視覚的アプローチを通じて、小中高生とその保護者を対象に幼児教育に携わる仕事の魅力ややりがい伝える内容となっており、今後の人材確保や関心を高めるための有力な手段となることが期待される。

実施体制は、企画・分析・効果検証担当者が中心となり web 調査結果と各取り組み（A～K）担当者からの報告に基づき実施した。また、地元の幼稚園等に撮影協力を依頼し、撮影・制作・配信運用には、大学広報センターおよび制作会社の協力を得た。

方法（対象及び効果検証の手法）

事業全体および各取り組み（A～K）のエビデンスを踏まえ、職業の魅力箇所を整理した上で、特設 LP および動画を制作した。特設 LP は、大学 HP と連携させ、特設 LP 内に動画（YouTube）を埋め込む形で公開した。また、地元の高校生とその保護者層を対象に広告配信および特設 LP の QR コードを載せたフライヤーの配布を行い、特設 LP と動画への誘導を行なった。効果検証は、アクセス状況（閲覧・再生回数等）により実態を把握した。

結果及び考察（実施報告及び成果）

特設 LP を開設し、幼児教育の魅力と職業への理解を深める視覚情報を発信したところ、インタビュー動画（3:55）は、11 月 1 日～1 月 10 日までのおおよそ 2 ヶ月で 583 回の再生回数を記録した。参考までに、特設 LP を設けていない同時期配信（10 月 31 日）学内動画（0:33）は、再生回数 126 回であった。さらにインフォグラフィック動画（3:14）は、12 月 16 日～1 月 10 日までのおおよそ 1 ヶ月で 100 回の再生回数を記録した。参考までに、特設 LP を設けていない場合における動画の 1 ヶ月間の平均再生回数は 60 回程度である。

以上より、特設 LP の開設は、普及・啓発する上で一定の効果が期待できる可能性が示された。

結論（実施におけるポイント及び課題）

実施のポイント

- ・“学び続ける”喜びが、どのように幼児教育の職に繋がるかをイメージできるよう視覚情報によるアプローチを試みた。
- ・動画等の視覚情報を効果的に発信し普及・啓発に繋がるよう、特設LP、YouTube、フライヤーを連携させ一体的に運用した。
- ・幼児教育に関するポジティブな体験と社会的イメージとの乖離を埋める動画を調査データに基づき制作・発信した。

課題

- ・配信期間：採択後1月までの限られた期間での実施と検証のため、十分な検証ができたとは言い難い。引き続き配信していくとともに、入試状況等も含め経年的・継続的に効果検証を実施していく必要がある。

特設LP



動画



フライヤー



取組名：A2【高校での授業（出前授業）による職の魅力発信】

（上村 明）

実施時期：2024年7月、9月、10月ほか

概要（取組内容及び実施体制）

本取り組みは、高大連携事業の一環と出前授業を通じて、地元の小中高生に幼児教育の重要性、幼稚園教諭としての実践的な側面などを紹介する授業を提供することを目的とした。

授業は、事業全体を通じて得られたデータをもとに生徒が求める情報を中心に構成し、幼児教育の社会的イメージから他に進路を変更する一定数の小中高校生に向けてその情熱を再燃させることを目指した内容となっている。なお、地元の高校生だけでなく小中学生も受講できるよう市川コンソーシアムと連携し申し込みできる体制を整えた。

実施体制については、企画・分析・効果検証担当者が中心となり、web調査および各取り組み（A～K）担当者からの報告に基づき授業内容を作成し実施した。実施先（高校）との調整は、高大連携支援室、地域連携センター（市川コンソーシアム）、入試・広報センターが中心となり実施した。

方法（対象及び効果検証の手法）

2024年7月から10月までの期間で地元の高校5校（公立3校 私立2校）を対象に実施した。プログラムの実施後、参加者に対して質的アンケートを実施した。

結果及び考察（実施報告及び成果）

小中学生も受講できる体制を整えたが、申し込みはなかった。

高校生を対象とした受講生アンケートでは、「幼児教育がいかに大切なのか深い学びにつながった」、「幼い頃の大人の関わりや環境が、その後の人生に長く大きな影響をもたらすことが理解できた」、「大変そうという印象があったが、処遇面等でも少しずつ改善されていることがわかり安心した。乳幼児期は重要なので、日本の保育や幼児教育も待遇や働きやすさも国際基準並みにどんどん改善されたら良いなと感じた」などの意見が寄せられた。

結論（実施におけるポイント及び課題）

実施のポイント

- ・ 幼児教育の重要性と社会的インパクトについてエビデンスを用いて教授した。
- ・ 調査データに基づき幼児教育に関するポジティブな体験と社会的イメージ（ネガティブな印象）との乖離を埋める内容を授業内容に盛り込んだ。

課題

- ・ 小中学生に特化した体験教室の検討、および市場調査等により情報収集が求められる。

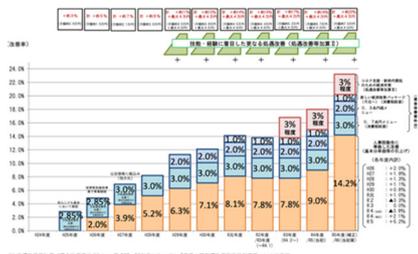
高校での授業（出前授業）の資料の一部

データで見る幼児教育・保育 エビデンスとナラティブの探求

和洋女子大学 こども発達学科
上村明



保育士等の処遇改善



保育者の賃金や手当は、改善傾向。10年で23%アップ。

授業目標

- 幼児教育・保育に関連する国内外のエビデンスデータから課題を探る
- 数字では見えない、「育ち」を支える保育実践（ナラティブデータ）から、保育の本質を理解する
- 幼児教育・保育の「過去・現在・未来」を考察する

国内総生産（GDP）に占める教育機関への支出の割合



日本は、幼児教育にお金をかけて来なかった
すべての子どもや子育て家庭への大幅な支援の拡充に期待

OECD2021 幼児教育が大人との関係性にどう影響するか

TEACHERS REPORT THAT CHILDREN WHO HAVE PREVIOUSLY ATTENDED ECEC TEND TO BE MORE CONFIDENT IN INTERACTING WITH ADULTS

56% of children who previously attended ECEC are 'often/always' confident around adults, compared to 46% of children who had not.

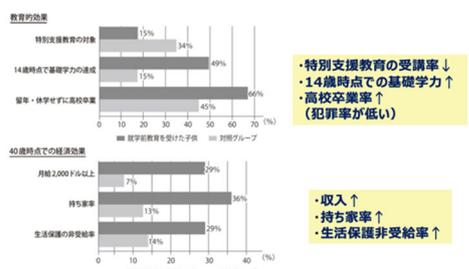
49% of children who previously attended ECEC 'often/always' approach familiar adults for comfort when upset, compared to 42% of children who had not.

園に通っていた子の56%は、大人に対して自信を持っている（通っていなかった子どもでは46%）
園に通っていた子の49%は、落ち込んだときに身近な大人に慰めを求めて近づいていく（通っていなかった子どもでは42%）

幼児教育を受けた子は、より自信をもって大人と共に行動する傾向

出典：OECD International Early Learning and Child Well-being Study (2021)

ベリー就学前プログラム40年間の追跡（教育経済学）



特別支援教育の受贈率 ↓
14歳時点での基礎学力 ↑
高校卒業率 ↑ (犯罪率が低い)

収入 ↑
持ち家率 ↑
生活保護非受給率 ↑

出典：Heckman (2013) 注：日本語訳は古澤(2015)

遊び＝幼児期にふさわしい学び

■ 幼児期は、遊びを通して総合的に学んでいく。

- 様々な角度、素材で試す
- 友達とかわかる
- 友だちに説明する
- 友だちに話す
- 順番にする
- 互いに観察する
- 意見の対立と葛藤
- アイディアを出し合う
- 片付ける

転がり方に関する発見 (摩擦・回転など)

引用：文部科学省 (2021) 幼児教育の質の向上に向けて～社会に関わった幼児教育がキッカケ～

2018年度	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
①子ども理解	事実	解釈	事実								
②ねらい											
③手立て											
④評価(ふりかえり)											

取組名：A3【大学での授業（体験授業）による職の魅力発信】

（田島 大輔・矢藤 誠慈郎）

実施時期：2024年7月～8月・10月～12月

概要（取組内容及び実施体制）

高校生が保育者養成課程の授業を体験することで、幼稚園教諭及び養成校に対する興味・関心を高める目的で行った。高校に赴く出前授業と異なり、協定校を中心とする近隣校の高校生が学校単位で大学で受講するものである。講義は学科教員が担当し、高校との調整や受け入れ態勢については、高大連携支援室、入試・広報センターが中心となって実施した。

体験講座では、子どもに対する理解や幼児教育の現場での実際の事例や基本となる視点を学ぶことで、専門性を深めていく機会を提供した。また養成施設の見学、実際の授業参加を実施し、高校生が養成校教員や学生と一緒に授業を、受け学び、保育者養成校の授業の実際や幼稚園教諭へのイメージがもてるように高校生・養成校生の交流を図った。

<講義>

日程	内容	概要
8月7日	夏の探究講座 68名 (保護者 11名) 参加	学科説明・探究講座「遊びを通した学びとそれを支える保育の専門性」として授業を実施。
12月18日	千葉県立八千代高校の 高大連携見学会	千葉県立八千代高校 普通科・家政科1年生授業参加及び施設見学を行う。

<見学会>

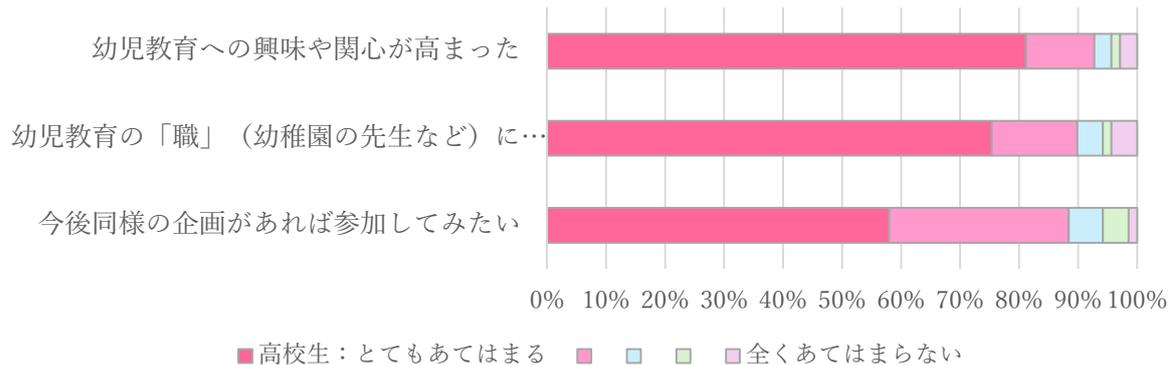
日程	内容	概要
7月11日	大学説明会	和洋国府台高校の学生に説明会を開催
10月7日	東京都立 忍岡高等学校見学	都立忍岡高等学校の学生に施設見学を行う。
10月8日	茨城県立 土浦湖北高等学校見学	茨城県立土浦湖北高等学校の学生に施設見学を行う。
10月22日	千葉県立 千城台高等学校見学	千葉県千城台高等学校の学生に施設見学を行う。
10月24日	千葉県立 市川南高等学校見学	千葉県立市川南高等学校の学生に施設見学を行う。
11月5日	千葉市立 千葉女子高等学校見学	千葉女子高等学校の学生に施設見学を行う。
12月17日	和洋国府台中学校見学	和洋国府台中学校の学生に施設見学を行う。

方法（対象及び効果検証の手法）

対象は、協定校を中心とする高校生である。高校生の参加人数及び参加後のアンケートを効果検証の指標とした。

結果及び考察（実施報告及び成果）

高校生のべ68人から得たアンケート結果を以下に示す。



いずれの質問に対しても「とてもよく当てはまる」「あてはまる」に約90%回答しており、見学・体験授業の取り組みが幼稚園教諭及び養成校に対する興味・関心を高めるといふ目的が概ね達成されたことが読み取れる。自由記述では、「子どもへどう接すれば、より豊かに育つことが出来るのかがわかり、これからは活かしていきたい」や「子どもの一つ一つの行動はいろんなことを学んでいることがわかった」、「今日話をきいて子どもへの考え方がすごく変わった」また授業参加や見学会でも、「(実際の)子どもたちのことを考えて授業をしていて、わかりやすい」や、「とっても楽しかった、毎日授業を受けたいなと思いました」、「実際の施設を見てイメージが湧いてきた」などの回答があり、見学や体験授業の取り組みが効果的であることが示された。

結論（実施におけるポイント及び課題）

実施のポイント

- ・**実際の修学イメージや見通し**：実際のイメージを広げる視点になり、幼稚園教諭及び養成校に対する興味・関心をもてる企画となった。また子どもや幼稚園教諭の視点から学べ、専門性に触れる機会となった。
- ・**学内連携**：高校との調整窓口（本学では高大連携支援室）と連携した。

課題

- ・高校生が見学時に授業に参加できるようにするためには、時間帯を工夫する必要がある。

取組 B オープンキャンパスなどを活用した小中高生向け模擬授業や個別相談

取組名：B1【オープンキャンパスを通じた職の魅力発信】

(金井 智恵子)

実施時期：2024年7月、8月

概要（取組内容及び実施体制）

「オープンキャンパス」では、主に高校生を対象に、幼児教育の魅力を伝える体験授業やイベントを実施した。高校生の興味・関心を引き出すために、施設ツアーや個別相談会を併せて実施した。

- ・7月21日のイベント：「保育業界で活躍する卒業生にインタビューしよう」では、若手卒業生に以下の質問を投げかけ、現場でのリアルな経験や幼児教育のやりがいを具体的に伝えた。「幼稚園教諭としての1日の流れ」「やりがいや楽しさを感じる瞬間」「幼稚園教諭を目指したきっかけや理由」などである。
- ・8月11日の体験授業：「心配ごと丸ごと解決！音楽授業ダイジェスト」では、音楽を活用した教育活動の魅力を伝える内容を実施した。参加者は、音楽を通じて子どもの成長を支える教育の魅力を体感し、教育者としての役割を学んだ。
- ・8月25日の体験授業：「発達障害について学ぼう」では、多様な子どもたちの可能性を引き出し、成長を支える幼児教育の重要性を学ぶ内容を展開した。特に、発達障害への理解を深めることが、現場での実践力に繋がることを伝えた。
- ・施設ツアー：養成校の教育環境や学びの内容を実際に体感する機会として、高校生が養成校生による施設案内や質疑応答を通じて、幼児教育の学びや実践について具体的なイメージを持てる場を提供した。
- ・個別相談会：進路に迷う高校生一人ひとりの興味や疑問に寄り添い、教員と養成校生が丁寧に対応した。幼児教育の魅力や進学後の意義を個別に伝えることで、進路選択のサポートを行った。

実施体制は、こども発達学科の教員および養成校生が中心となった。

方法（対象及び効果検証の手法）

対象は、7～8月のオープンキャンパスに参加した高校生と保護者（113組）。オープンキャンパス終了後、参加者を対象に量的・質的アンケートを実施し、50名から回答を得た。

結果及び考察（実施報告及び成果）

アンケート結果から、オープンキャンパスの満足度はおよそ 100%（満足 98%、普通 2%）と高評価を得た。参加者からは「体験授業を通じて学びが得られた」「設備が充実しており、幼児教育について学びやすい環境だと感じた」「養成校生のお話を直接聞いて、幼児教育に進みたいと思った」との意見が寄せられた。

これらの結果は、イベントや体験授業が幼児教育の魅力を伝える効果的な手段であったことを示している。

結論（実施におけるポイント及び課題）

実施のポイント

- ・体験型プログラムの効果：体験授業や卒業生のエピソードは、幼児教育の魅力を具体的に伝える上で有効である。
- ・個別対応の重要性：個別相談会で、高校生一人ひとりの疑問に丁寧に対応することで、理解と進路選択を支援が可能となった。
- ・現役学生との交流：養成校生による案内や質疑応答は、進学後の学生生活をイメージするための効果があった。

課題

- ・参加者層の多様化：高校生以外（例：小・中学生）への対応内容の検討が必要である。
- ・集客の強化：もっと多くの人に参加してもらうため、広報の強化や SNS の活用、新たな集客方法の模索が求められる。

これらの成果と課題を踏まえ、次年度も効果的なプログラムを企画・運営し、幼児教育の魅力をさらに広く発信していきたい。

大学でのオープンキャンパスの様子



取組 C 養成校生、現職教諭等との多層型交流の機会の設定

取組名：C1【多層型交流による保育実践ワークショップ】

(甲斐 万里子・大神 優子)

実施時期：2024年7月・10月・11月

概要（取組内容及び実施体制）

高校生に保育者養成校の授業や大学生活を紹介し、幼稚園教諭及び養成校に対する興味・関心を高める目的で、当初は高校生が養成校生と一緒に保育現場を訪問することを計画していた。しかし、高校側から、「保育体験は高校でもできるので、それよりも大学ならではの学びの経験の方が望ましい」というご指摘があったため、大学でのワークショップを中心として高校生・養成校生の交流を図った。

外部講師を招いて3種類のワークショップを実施した。高校生が大学生と一緒に子どもの立場になって遊び、現場で実践する上での注意点や鍵となる視点を学ぶことで、専門性を深めていく機会を提供した。各ワークショップの概要は以下の通りである。

日程	テーマ（外部講師）	概要
7月17日	手遊び・歌遊び (荒巻 シャケ 氏)	保育シンガーソングライターを招き、子どもと一緒に手遊びや歌遊びを楽しむための考え方や工夫を体験しながら学ぶ
10月21日	即興演劇 (絹川 友梨 氏)	即興演劇の専門家を招き、演劇の技術を使った遊びを通して、「イエス・アンド」をキーワードに、子どもの表現を受け止め、広げる視点と工夫を学ぶ
11月11日	パネルシアター (松家 まき子 氏)	パネルシアター作家として活躍する専門家を招き、パネルシアターを現場で効果的に展開する様々な技法を学ぶ

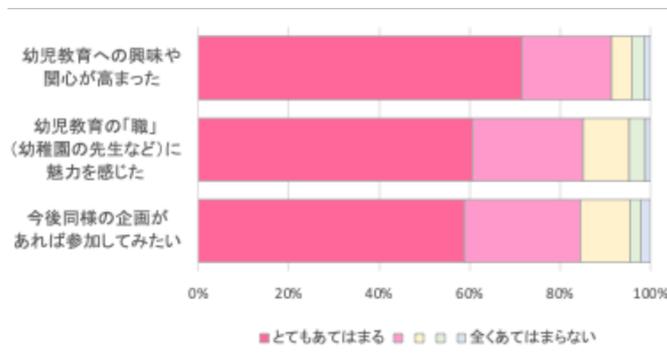
各回とも、当日は外部講師が主となって進行し、該当分野の学科教員が適宜サポートする体制で実施した。なお、高校との連絡や高校生の当日の誘導等については、本学高大連携支援室の協力を得た。なかでも10月のワークショップは、高大連携支援室の仲介で予め日程を調整したため、高校から家庭科教員3名が引率する形で、高校の保育基礎コースの生徒がクラス単位で参加することができた。

方法（対象及び効果検証の手法）

対象は、本学の協定校である高校の生徒と養成校生1～4年生である。高校生の参加人数及びワークショップ後のアンケートを効果検証の指標とした。

結果及び考察（実施報告及び成果）

高校生のべ 21 人・養成校生のべ 414 人の計 435 人から得たアンケート結果を以下に示す。



いずれの質問に対しても「とてもよく当てはまる」「あてはまる」と80%以上が回答しており、本取組の幼稚園教諭及び養成校に対する興味・関心を高めるといった目的が概ね達成されたことが読み取れる。自由記述では、高校生から「初めて会った大学生と活動するのはとても緊張したが気軽に話しかけてくれて嬉しかった」「大学での学びがとっても楽しみになりました!!」、養成校生から「先輩と一緒にやることで学ぶことが沢山ありとても楽しく遊ぶことが出来ました」などの回答があった。また、講師からも高校生が参加する効果について指摘があり、ワークショップ形式での多層型交流が効果的であることが示された。

結論（実施におけるポイント及び課題）

実施のポイント

- ・ **創造性を育む実践的学び**：個々のアイデアを引き出し、尊重し合い、広げる視点を学び深められる企画とした。
- ・ **高大接続及び地域連携**：地元の高校と連携し、高校で培った力が大学や将来において、いかに発展し生かされるのかをイメージできる企画を開催した。
- ・ **学内連携**：高校との調整窓口（本学では高大連携支援室）と連携した。

課題

- ・ 高校生が参加しやすくするためには、開催時期や時間帯を工夫する必要がある。
- ・ 企画段階から大学・高校間で調整できるのが望ましい。予算の問題があるが、年間スケジュールに組み込める時期から計画できると良い。



第2章 各取組の実施内容及び成果

②養成校生を対象としたキャリア形成支援

取組 D OB/OG などとの交流会

取組名：D1【ロールモデル（若手 OG）との交流】

（上村 明）

実施時期：2024 年 7 月

概要（取組内容及び実施体制）

本取り組みは、現職教諭として活躍する卒業生（以下、OG）・養成校生・高校生の交流の機会を設定することで、養成校生と高校生が親近感を持てるロールモデルを見つけ、幼稚園教諭の具体的なイメージを形成できるようにすることを目的とした。

このロールモデル（若手 OG）との交流は、若手 OG と幼児教育・保育領域に関心にある高校生を大学に招き養成校生を交えて座談会方式で実施した。多層的交流を図ることで、養成校生や高校生が「幼稚園教諭」という職業について具体的なイメージを持ちやすくなり、さらに将来に向けたモチベーションを高めやすくする狙いがある。

実施体制は、現職者・キャリアアップ担当者と企画・分析・効果検証担当者が中心となり実施した。卒業生への依頼はゼミ担当の教員が担当し、入試・広報センターと連携した。

方法（対象及び効果検証の手法）

2024 年 7 月 21 日に、就職 5 年目までの現職教諭（若手 OG）を招き、座談会方式で実施した。効果検証は、実施後、参加者に対して質的アンケートを実施した。

結果及び考察（実施報告及び成果）

アンケート結果では、参加者の満足度は 100%であった。高校生を対象とした受講生アンケートでは、「大学入学後の様子や就職、公務員試験の対策方法など詳しく知ることができた」「同じ大学・学科の先輩と就職先で一緒に働けるのは心強いと思った」「大変というイメージがあったので保育の道に進学するか迷っていたけど、先輩方のお話を聞いて安心した。」などの意見が寄せられた。

結論（実施におけるポイント及び課題）

実施のポイント

- ・現職の若手教諭（OG）、養成校生、高校生の多層的交流の機会を設定し、養成校生および高校生のキャリアイメージの形成を支援した。
- ・インタラクティブな形式により、参加者同士が意見を交換したり、現職教諭に気軽に直接質問したりできる場を設定した。

課題

- ・終了後に個別の相談を希望された高校生・養成校生もいたため、全体での座談会交流だけでなく、個別に相談できる機会の設定も検討したい。



取組名：D2【ロールモデル（子育て中のOG）との交流】

（大神 優子）

実施時期：2024年12月

概要（取組内容及び実施体制）

子育て中の卒業生が大学に相談に来た際の会話から、急遽実施に至った企画である。養成校生の身近なロールモデルとして、育休中の卒業生を子どもとともに大学に招き、卒業生親子と養成校生の交流を図った。卒業生の在学時を知る教員が窓口となり、卒業生側の発起人と連携した。

方法（対象及び効果検証の手法）

対象は、養成校生3年生である。複数回の実習を経て卒業後の進路を考える時期であり、就職後のライフステージをイメージできるようになることを目的とした。本学でも初めての企画であったためやや人数を絞り、参加親子（卒業生）計17人（うち生後3か月～5歳の子も10人）に対し、養成校生10人が参加し、会場準備等を担った。アンケートを効果検証の指標とした。

結果及び考察（実施報告及び成果）

養成校生のアンケートでは、子ども達とのかかわりを楽しみつつ、「子どもの性格を理解した上でのお母さんの伝え方」など、子育て中の先輩の様子を将来を考える参考にしたことがうかがえた。ただし、「もう少しお母さんと話せたらより良かった」とのコメントから、参加人数や時間配分には再考の余地がある。

結論（実施におけるポイント及び課題）

実施のポイント

- ・大学会場における備品や教材の活用：大学で開催し、椅子や玩具等も学科の備品を利用することで、養成校生が準備しやすかった。
- ・育休中を活かした平日開催：平日の方が、親子はきょうだいを預けて外出しやすく、養成校生にとっても授業の合間に参加しやすかった。

課題

- ・親子に対する養成校生の人数バランス。親子と同人数かそれ以上いた方が、話を聞くことに専念しやすいかもしれない。



取組 E 適切な職業紹介事業などの普及啓発

取組名：E1【進路支援センターを中心としたキャリア形成支援】

(大神 優子)

実施時期：通年

概要（取組内容及び実施体制）

学科の担任等と連携しつつ、進路支援センターの専任職員が中心となって就職に向けた個別支援を行った。公務員講座は1年次から受講できるが、個別対応は3年次後期の全員の個別面談から本格的にスタートする。ここから内定獲得まで一人あたり平均5回、卒業まで一貫して様々な個別支援を実施した：進路相談、幼保データベース（紙ファイル含む）の活用方法、どの自治体に応募するか（公立志望者）、園見学をいつ・どのように行うか（私立志望者）、応募書類添削、作文・小論文対策、面接練習等。利用頻度やタイミングは希望によるが、熱心な学生は、進路支援センターや学科教員を繰り返し訪問していた。

個別支援以外にも幼保希望者のみの特別講座として、7月に学科教員による幼保就職ガイダンス、8月に自治体職員経験者による面接練習や書類作成指導を実施した。1月下旬には、4年生による内定者報告会（3年生対象）を予定している。なお、3月には講座形式の面接対策、オンデマンドでの作文、作文・小論文対策も実施予定である。

卒業後も個別相談は可能であり、大学の幼保データベースから既卒生案件へアクセスできるようにシステム調整も行った。大学HPの他、卒業時に周知する。

方法（対象及び効果検証の手法）

対象は、養成校生4年生（卒業年次生）及び既卒生である。該当者一人あたりの就職支援の利用状況及び幼児教育・保育職への就職率を効果検証の指標とした。

結果及び考察（実施報告及び成果）

該当者に対しては100%の支援を行った。既卒生も数名ではあるが利用があった。学科発足以来、就職志望者は100%の入職率であり、なかでも幼児教育・保育にかかわる職につく割合が高い。今年度の幼保就職率も90%を見込んでいる。

結論（実施におけるポイント及び課題）

実施のポイント

- ・就職支援の職員と学科教員との連携：情報共有・相談を随時行った。
- ・多様なニーズへの個別対応：対面・オンラインを組み合わせ支援した。また、内定獲得に時間を要する養成校生については、本人了承のもと保護者の協力も得た。
- ・既卒生からの情報収集：卒業後の個別相談だけでなく、就職担当者としての母校訪問等も利用して、働く場所としての園の状況を把握し、情報の更新及び提供を行った。

課題

- ・進路を変更する養成校生への対応：本人の適性及び進路変更理由に応じたフォローが必要である。

取組 F 周辺幼稚園等からの PR 機会の設定など、自治体が実施する人材確保施策（マッチング、UIJ ターン等）と連携したキャリア支援

取組名：F1【自治体と連携した就職マッチング・プラットフォーム形成の試み】

（大神 優子）

実施時期：7 月

概要（取組内容及び実施体制）

私立幼稚園・保育施設合同就職説明会「幼保就職ナビ in いちかわ」を実施した。市川市及び大学コンソーシアム市川（※）産官学連携プラットフォームのキャリア支援部が主催しており、会場は保育者養成課程をもつ大学の持ち回り制である。進路支援センター及び学科教員から授業を通じて周知した。

方法（対象及び効果検証の手法）

対象は市川市内で事業を展開している私立幼稚園・認定こども園・私立保育園・小規模保育所及び就職を希望する大学コンソーシアム市川の養成校生である。既卒生も参加を受け付けた。参加数（法人数・養成校生数）及びアンケートを効果検証の指標とした。

結果及び考察（実施報告及び成果）

市川市内で事業を展開している私立幼稚園・認定こども園・私立保育園・小規模保育所などの 30 法人の参加を得た。養成校生は 81 名（うち 27 名が本課程学生）であった。

アンケートから、「様々な園の情報、保育で大事にしていることを知ることができた。自分が保育で何を大切にしたいのか、どの施設が自分に合っているのかを見極めていきたいと思う」「気になっていた保育施設の話を知ることができた」（養成校生）、「しっかりとメモをとり積極的に話をきいてくれ、事業者としてもうれしかった」（参加園）との声があった。

※千葉県市川市に所在する 5 大学が、相互に連携協力し地域社会の発展に資する目的で、2018 年設立。市川市・市川商工会議所と産官学連携包括協定を締結し、大学コンソーシアム市川産官学連携プラットフォームを形成している。



結論（実施におけるポイント及び課題）

実施のポイント

- ・合同説明会に参加する養成校生が減少しているため、掲示物だけではなくオンラインでの積極的案内など、各大学の担当者より周知を徹底した。
- ・効率的に準備して説明を聞けるように、事前に参加園の一覧を案内した。
- ・養成校生が安心して参加することができるように、会場校だけでなく各大学の担当者も同行した。

課題

- ・**参加者のニーズの変化への対応**：SNS世代である養成校生は自分にあった情報が自然に集まる環境において「たくさんの園がある中でどの園の説明をうかがったらよいかわからず参加しにくい」という声もあった。意図的に参加団体を絞った小規模合同説明会等も解決の一つになりうると想定する。ただし、近隣自治体を含めて多くの説明会があるために養成校生が分散し、参加率の減少につながっている可能性もあるため、実施規模や回数には検討が必要である。
- ・**参加者募集の方法**：多様な園を知る機会として参加を義務づけたり低学年の参加を認めたりする養成校もあったが、「明らかに本人の意志で参加していない場合が見受けられた」という指摘があった。園を知る機会を保障しつつ、どのような参加方法が適切かを検討する必要がある。

取組 G 幼児教育施設や幼児教育センター、他大学等と連携した効果的なカリキュラムの開発

取組名：G1【幼児教育施設と連携したカリキュラム①初年次】

(権 玆珠・田島大輔・田代和美)

実施時期：2024 年 9 月

概要（取組内容及び実施体制）

幼児教育者・保育者を養成するこども発達学科の実践的教育プログラムとして、「保育体験」（1 年生を対象としたアクティブラーニング）を実施した。入学後の半年間の座学を経た夏休みに、実際に保育の現場で子どもの遊びへのかかわりをとおして保育の楽しさを体感し、専門的な学びへの興味・関心が高まり、専門科目の学修や実習により積極的に取り組めるようにつなげることをねらいとしている。現場の保育者の姿からその仕事の魅力を感じ、幼児教育・保育への進路選択へのきっかけとなることが期待できる。

今年度は大学所在地である市川市の協力を得て、9 月 9 日 9：00～12：30 に市内の公立保育園 9 か所（鬼高・大和田・香取・行徳・塩焼・新田第 2・菅野・稲荷木・富貴島保育園）で実施した。学生の活動をサポートし、園側と意見交換するため、担当教員 3 名が分担して園を訪問した。

方法（対象及び効果検証の手法）

対象は、養成校生 1 年生 56 名と 2 年生 1 名である。保育体験がより充実した学びとなるよう、次のとおり事前準備と事後の振り返りを実施し、これらの過程で得られたコメントとレポートを効果検証の指標とした。

- ①参加学生のグループ分けと参加する園の調べ、グループワークによる事前学習の実施。
- ②7 月 13 日、保育研究・実践家である宮里暁美氏による特別講義（こどもの理解と保育士の役割）の実施。
- ③7 月 16 日、受入れ側の市川市立保育園長らと学生たちとの顔合わせ、事前交流の実施。
- ④9 月 9 日、保育体験実施。体験終了後に園長との対話の時間を設け、学生の気づきのシェアおよび質問と園長からのフィードバック。
- ⑤学生自身の振り返りや取り組みの効果把握のため、終了レポート作成と提出を指導。

結果及び考察（実施報告及び成果）

実施後の学生たちのレポートから、子どもへの理解を深め、乳幼児と関わる仕事の面白さを実感し、専門的な学びに向けての課題発見および意欲の向上がみられ、本取り組みの意義が確認された。学生は、大学での学びと実際の子どもの姿を関連させて考え、気づきを深め、新たな疑問や課題を発見しているという成果がみられた。

以下、学生の気づきや疑問に感じた具体的な内容を一部挙げる。

- ▶授業で学んだ3歳児クラスの子どもと実際にかかわった3歳児の子どもたちの違いを感じ、この年齢でも一人ひとりの性格や個性が形成されていることを実感した。
- ▶一人ひとりと平等に話ができ、子どもたちとより親密に関わることができてとても楽しかった。行きよりも帰りの気持ちがすごく晴れやかになり、子どものパワーはすごいと感じた。
- ▶今回保育体験に行き、子どもたちの目線に自分の目線を合わせることで子どもの見ている視野を体験することができ、大人の目線では気にならない危険などに気がつくことができた。
- ▶子どもが次から次へと色々なところに視線を向けていて、その視線が向けられた先に先生方が考えられた環境があった。その環境は子どもの成長に合わせて作られているのだと理解できたが、どうやったらその環境のアイデアが出てくるのだろう。
- ▶子どもによってお昼に食べているものが違い、また、フォークで食べている子もいれば、お箸で食べている子どももいてその違いが気になった。体験後の話し合いの場で、宗教の関係で食べるものや配膳の違う子がいることや、月齢の差などの理由によって食べる方法・食器が違うことを確認することができた。
- ▶子どもたちはまだ言葉で自分の気持ちを上手く表現できないことも多いと思うが、興味を持ったたり新しいことに挑戦したりする姿に感動した。自分自身が子どもたちから学ぶことが多いと感じ、子どもたちとの関わりを大切にしていきたいと考えている。
- ▶保育体験に行くまで、5歳児といっても1つの物事にみんなが集中することはできないのではないかと私は考えていたが、今回の保育体験を通して5歳児でも先生の話をしっかり聞き集中して物事に取り組むこともできるのだと感じた。
- ▶子どもが自ら何かに興味を持って行動を起こそうとしている時、どこまで手を差し伸べて良いのかと気になった。
- ▶お昼の時間に手を洗った人から机に座り先生がその順番で配膳していく形で、みんなで「いただきます」を一緒にしていなかったことが驚き。
- ▶子どもが好きな物や大切なものを何でも教えにきたり、何回も見せにきたりするのはなんでだろう。
- ▶1歳児クラスの子どもたちの外遊びはひとりで探索をしている様子が多く見受けられた。年齢が上がっていくにつれて遊びにどのように変化があるのか、知りたい。

結論（実施におけるポイント及び課題）

実施のポイント

学生の体験のポイントとして、以下の3点を重視した。

- ・子どもの好きなあそびを知る（遊びを観察したり、見守ったり、一緒に遊んだりする）。
- ・子どもと保育者との触れ合いを通して、保育の現場を身近に感じる。
- ・保育者とはどんな存在なのかを知る。

課題

- ・この取り組みを継続し、保育者・幼児教育者養成の導入教育として定着させていく。
- ・学生の多様な気づきと学びをさらに可視化、共有化できる仕組みを検討する。

取組名：G2【幼児教育施設と連携したカリキュラム②大学での学び】

(小山 朝子)

実施時期：2024年7月・11月

概要（取組内容及び実施体制）

本取り組みは、「専門性向上を目指した保育現場との連携・協働による学生の学び－保育・幼児教育の場とつなぐ保育実践プロジェクト－」と題し、これまで地元市川市と様々な形で独自に連携してきた保育者経験をもつ実務家教員が、その関係構築の実績を活かして保育現場と連携し、協働して養成教育の質向上を図ることを目的として実施している。現時点では正規のカリキュラムではないが、その前段階と位置付けられる。その内容のひとつとして「保育現場に行くための体験型学習の場となるワークショップの企画・実施」をすることとし、今年度は、プレ開催7月、本開催11月として2回実施した。

方法（対象及び効果検証の手法）

7月は、保育シンガーソングライターの荒巻シャケ氏による「あそび実践から考える～子どもと一緒に創ることの面白さ～」、11月は、パネルシアター作家および実演家の松家まきこ氏による「パネルシアターの世界はおもしろい！ たのしい！」を開催した。対象は、養成校生1～4年生である。効果の検証として、ワークショップ終了後に量的・質的なwebアンケートを実施した。

結果及び考察（実施報告及び成果）

2つのワークショップは、参加者との対話形式で実施され、講師と学生、学生たち同士で交流を深めながら楽しむことができた。ワークショップを実施した後も、多くの養成校生から「保育実践で取り入れてみたい」「同じものを製作して演じてみたい」といった声が寄せられ、体験型の学びの重要性を改めて理解できた。

結論（実施におけるポイント及び課題）

実施のポイント

- ・子どもの視点で楽しむ：保育を学ぶ学生として、子どもの視点で楽しむ体験型のワークショップから学ぶことができた。
- ・養成校生主体の学び：保育実践・実習などで“子どもと一緒に楽しみたい！”という学びの意欲につながった。

課題

- ・フォローアップ強化：ワークショップ実施後に、関連する取り組みを学科教員で企画・実施し、より深い学びがある取り組みにしていくことによって、学びの向上につながる。

<荒巻シャケ氏のワークショップの様子>



<松家まきこ氏のワークショップの様子>



取組名：G3【幼児教育施設と連携したカリキュラム③現場での学び】

(小山 朝子)

実施時期：2024年8～9月・11～12月

概要（取組内容及び実施体制）

本取り組みは、「専門性向上を目指した保育現場との連携・協働による学生の学び－保育・幼児教育の場とつなぐ保育実践プロジェクト－」と題し、これまで地元市川市と様々な形で独自に連携してきた保育者経験をもつ実務家教員が、その関係構築の実績を活かして保育現場と連携し、協働して養成教育の質向上を図ることを目的として実施している。また、養成校生の学びとキャリア形成を支援することを目指している。現時点では正規のカリキュラムではないが、その前段階と位置付けられる。そのひとつとして「市川市内の公立幼稚園・保育園での保育実践の計画・実施」があり、希望する養成校生が市川市の公立幼稚園・保育園の9園にて保育実践を実施した。養成校生が保育現場で保育実践を行った後、養成校生と保育者で保育実践の振り返りを実施した。

養成校生は、科目評価とは関係なく、子どもとの関わりや自分がしてみたい保育実践ができることや、それまで学んできた保育に関する机上の学びと実践の学びを結びつけることができる点で、積極的に楽しみながら学ぶ機会となった。教育・保育施設の方々にも、本取り組みの趣旨にご賛同いただき、養成校生と保育者との交流も深められた。

方法（対象及び効果検証の手法）

4月に希望する学生をリクルートして、8～9月に第1回保育実践を実施して、自由遊びの中での保育参加や部分保育実践を行った。11～12月に第2回保育実践を実施して、企画・準備から実務家教員と相談しながら進め、トーンチャイムの演奏、パネルシアター、大型絵本などを活用したミニミニ集会や、木製玩具や人形遊び、構成遊びが楽しめる遊びの広場を行った。効果の検証は、参加した養成校生は、7月に事前意識調査、各保育実践後に事後意識調査を実施した。保育者は、各保育実践後に事後意識調査を実施した。

結果及び考察（実施報告及び成果）

8～9月の保育実践は、初めての取り組みで緊張している学生が多かったが、保育者に迎え入れられ、子どもとの関わりの中で多くの笑顔が見られた。11～12月は、学生同士で話し合いながら企画・準備を進めて保育実践をすることで、楽しみながら取り組むことができた。参加した養成校生からは、「また、やりたい」「今度は～をしてみたい」など、振り返りを次につなげていきたい意欲が感じられる声が寄せられ、協力してくださった保育者からは「私自身が学びになった」「子どもたちがとても喜んでいた」といった感想をいただいた。

結論（実施におけるポイント及び課題）

実施のポイント

- ・自由な思いで取り組める保育実践：養成校生が科目評価のない中で、子どもと関わったり、保育実践を無理なく楽しくできる機会となった。
- ・養成校生主体の学び：自分が製作した人形や児童文化財を試したりする姿があり、その後の実習にも役立てることができた。

課題

- ・授業時間との兼ね合い：特に 11～12 月の第 2 回保育実践については、学内授業が同時進行であるため、開催日に関しての調整が必要である。



取組名：G4【地元の親子を対象とした実践カリキュラム】

(金井 智恵子)

実施時期：2024年10月、12月

概要（取組内容及び実施体制）

「みつばちクラブ」は、地域連携型インクルーシブ教育支援カリキュラムの構築とその有効性の検証を目的としている。また、養成校生の学びとキャリア形成を支援することを目指している。

本カリキュラムは、地元の幼児と保護者を対象に、①リモート形式と②大学での対面形式で実施した。リモート形式では、養成校生が季節に応じた制作活動の動画を作成し、保護者向けに「発達障害の子どもの特徴」「偏食」をテーマとする動画を提供した。対面形式では、社会的スキル向上や子育て支援を目的とした活動を実施した。養成校生が作成した指導案に基づき、実践的なプログラムを展開した。

この取り組みにより、子どもの社会的スキル向上や保護者の育児ストレス軽減が期待されるとともに、養成校生に対しては、発達特性への理解を深める学びや現場スキル習得の機会を提供した。事前ガイダンスや活動後の反省会を通じて、養成校生の教育効果を高める支援体制も整えた。

実施体制は、公認心理師（発達臨床専門教員）、幼稚園教諭（幼児教育専門教員）、養成校生が連携し、それぞれの専門性を活かした形で展開している。

方法（対象及び効果検証の手法）

対象は地元の幼児と保護者（①3名 ②8名）、および実習経験のある養成校生（こども発達学科4年生：9名）。幼児と保護者の募集は2024年7月から関連機関および大学HPを通じて行った。プログラムの実施後、参加者と養成校生に対して量的・質的アンケートを実施した。

結果及び考察（実施報告及び成果）

①リモート形式の動画について、テーマの理解度と有効性が100%と評価された。参加者からは「偏食への対応方法が学べた」「子どもの発達について理解が深まった」との意見が寄せられた。②対面形式では、参加者全員が「次回も参加したい」と回答した。「専門家への相談で安心感を得た」「養成校生の対応が良く、子どもも満足していた」との声が寄せられた。

養成校生アンケートでは、発達障害と支援方法の理解度が100%であり、「実践が深い学びにつながった」との肯定的な意見が寄せられた。

結論（実施におけるポイント及び課題）

実施のポイント

- ・柔軟な形式の活用：リモートと対面を組み合わせ、多様なニーズに対応した。
- ・養成校生主体の学び：養成校生が指導案を作成・実践し、現場スキルを習得できた。
- ・保護者支援：発達特性や子育てに関する情報提供で保護者の安心感が向上した。

課題

- ・参加者数の拡大：広報方法を見直し、より多くの親子が参加できる環境を整備する必要がある。
- ・フォローアップ強化：オンライン相談会の実施やフォローアップ資料の配布など、継続支援体制を構築する。

大学での実践カリキュラムの様子



取組名：G5【地元自治体と連携した実践体験】

(矢萩 恭子)

実施時期：2024年11月

概要（取組内容及び実施体制）

「青少年相談員」活動は、本学の地元自治体である市川市青少年相談員連絡協議会により実施されている、スポーツ、野外活動等を通じた体験学習、ボランティア活動を通じた社会参加活動など、幅広い青少年健全育成活動を指す。今回の実践体験は、保育者養成校における学生の学びとキャリア形成を支援することを目的として、第2地区により毎月行われている当該活動に参加したものである。市川市立小学校の参加申込学童を対象に、市内の歴史的・文化的名所の一つである手児奈霊神堂を会場として、焼き芋とフィンランド発祥の競技モルックを楽しむというプログラム内容であった。学生は、プログラム開始前の打ち合わせに参加し、受付や芋洗い、焼き芋準備、モルック、その他の持ち場を分担、養成課程で培ったコミュニケーション力で低学年から高学年までの児童や家族、市民ボランティアの方々、本学卒業生などとすぐに打ち解け、積極的にボランティア活動に参加した。

この取り組みにより、児童が地域の多様な人々と出会い、関わり、楽しさを共有することが期待され、学生は、就学後の子どもと直接関わることにより、幼児期からの発達の連続性を考え、児童理解を深める機会を得た。

実施体制は、第2地区代表の小学校長と養成校教員が連携して日程等調整を行い、校長を初めとする地域の青少年相談員の方々、長年当該活動に携わってきた本学卒業生、在学生及び教員との協力体制の下に実施された。

方法（対象及び効果検証の手法）

対象は地元市川市内小学校2校の学童約40名、及びこども発達学科3年次在学生6名と卒業生2名。本実践は、在学中より当該活動に参加する、現職の幼稚園教諭・地方公務員として幼児教育・児童福祉に携わる卒業生との連携により実現し、在学生に対しては、実践体験後の参加レポートを基にゼミ授業にて振り返りを行った。

結果及び考察（実施報告及び成果）

児童は、初対面の学生と関わる様子やしぐさ、表情、言葉などから、学生に心を開き、信頼を寄せている姿が観て取れた。保護者も他の青少年相談員と同じように学生と会話し、我が子を託していた。特に、学校ではその言動が気になるだろう児童や保護者と接する場面では、保育の専門性を発揮し、その子のよさやありのままを受け止める援助が認められた。振り返りでは、児童が、地域の大人や異学年同士、他の小学校の児童と交流する経験の意義、遊びを通して相手の気持ちを思い協力することの学び、さらには、地域連携の重要性への気づきなどがあった。

結論（実施におけるポイント及び課題）

実施のポイント

・学童との交流実践：

幼小接続の意義や接続期のカリキュラムに関する大学での学びを実践的に深められた。

・地域との連携：

幼稚園教諭養成課程をもつ養成校が地域の活動に参加することを通じて保育の専門性を発揮した。

・在学生と卒業生との協力：

現職で活躍する卒業生との関わりから、キャリアモデルについて学ぶ好機となった。

課題

・養成校と地域との連携の継続性：

より多くの学生に活動の意義を伝え、参加の機会を保障していく必要がある。

・社会に開かれた教育課程の実現：

学校教育関係者、地域住民ボランティア、学童、きょうだい、保護者、若者などの世代間交流を促進する活動を通して保育者養成のより一層の周知を図り、その効果を検証していく。

「青少年相談員活動（焼き芋&モルック）」の実践の様子



取組 H 複数園での実習の推奨

取組名：H1【進路を見据えた複数園での実習経験の共有】

(田島 大輔)

実施時期：2024年11月

概要（取組内容及び実施体制）

複数の実習を経験した養成校生が実習後に実習報告会を開催し、異なる園での取組を比較できるようにすると共に、幼児教育の魅力を体験してきた学生自らが発信することにより幼稚園教諭に対する興味・関心を高める目的で行った。また実習の実際を身近なロールモデルから学び、今後の見通しを持てるように、異学年での交流も目的としている。

報告会では、教材や日誌などの実際の資料を基に体験した学生と対話できるようにグループになり、実習に対するイメージが構築できるように交流を図った。また事前・事後学習を行える様に授業支援システム manaba で資料を共有し、いつでも見返せるようにもした。

また報告会を開催する事前指導として、昨年度主催者を経験している学生と交流できるようにし、報告会のポイントなどを聞くことにより、報告会を行う学生側も経験から学びを得られた。

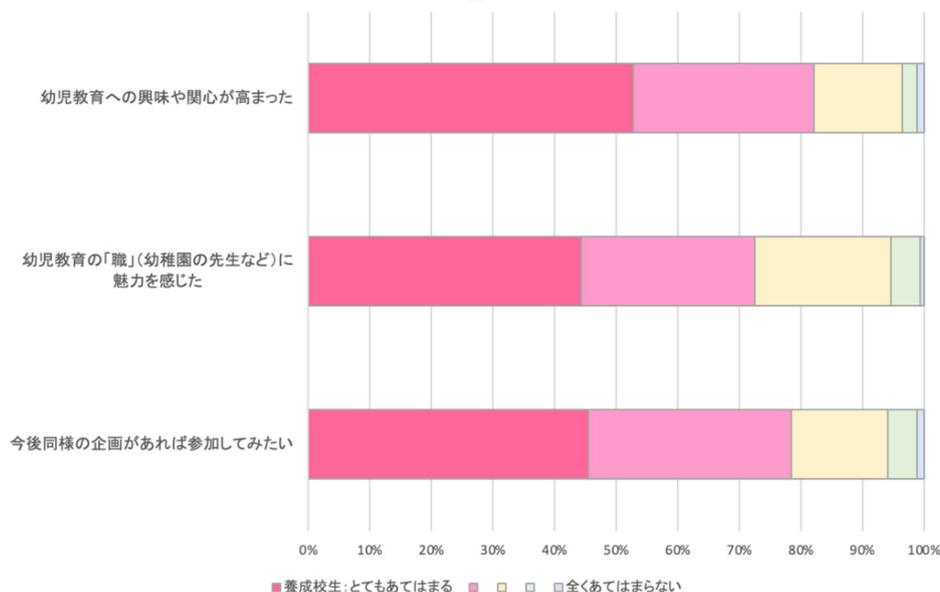
なお、当日の進行誘導等も学生主導で行い、実習担当の学科教員が適宜サポートする体制で実施し、本学科の教員全員が参加した。学生は実習指導や実習の準備教育として位置づけている。

方法（対象及び効果検証の手法）

対象は、本学の学生である。実習報告会の参加人数及び参加後のアンケートを効果検証の指標とした。

結果及び考察（実施報告及び成果）

1～3年生 187人から得たアンケート結果を以下に示す。



いずれの質問に対しても「とてもよく当てはまる」「あてはまる」をあわせると約80%が回答しており、報告会の取り組みが幼稚園教諭及び養成校に対する興味・関心を高めるという目的が概ね達成されたことが読み取れる。自由記述では、「実習について不安に思うことが多くありましたがとても細かい質問でも丁寧に答えていただいたので不安を少しなくすことができました」や「それぞれの園や施設について充実した情報を得ることができた」、「先輩方と関わる機会になったとともに、実習の実体験のお話を聞くことが出来て有意義な時間になりました」。「自分の未知の世界であるため漠然とした不安があったが、気持ちが軽くなると同時に意欲が湧いた。実習を楽しみながら頑張りたいと思う」などの回答があり、報告会の取り組みが効果的であることが示された。

結論（実施におけるポイント及び課題）

実施のポイント

- ・ **体験の発信と双方向の学びの促進**：学生同士が各園での取り組みや実習内容を比較・共有できる場を設けたことで、より具体的なイメージを持ちながら学びを深められる機会とした。また、異なる園の教育実践の違いや特色を理解し、幅広い視野で幼児教育への理解と関心を高めるとともに、将来のキャリア選択に対する視野を持つきっかけとなる機会を企画した。
- ・ **異学年交流**：全ての学科の学生が交流出来る機会を設けることにより、それぞれの学びのステージで実習や幼児教育に対する興味・関心や専門性を考える企画となった。
- ・ **学科内連携**：全ての学科教員が実習に関わるため学科教員全体と連携した。

課題

- ・ 報告会での準備の仕方、時間の捻出の負担が過剰にならないよう配慮する必要がある。
- ・ このような機会は高校生にとっても貴重な機会であるため、高校生も参加しやすくするための日程の設定や広報の在り方を工夫する必要がある。



取組Ⅰ 養成校生が自ら幼児教育の「職」の魅力を考え、発信する取組

取組名：I1【高校生への学びの魅力発信】

(金井 智恵子)

実施時期：2024年7月、8月

概要（取組内容及び実施体制）

本取組は、高校生に幼児教育の魅力を伝え、高校生が進路選択の参考になることを目的として実施した。

「オープンキャンパス」養成校生がスタッフとして、以下の取り組みを行った。

- ・施設ツアー：教育環境や学びの内容を体感する機会として、養成校生が案内や質疑応答を通じて幼児教育の実践的な魅力を伝えた。
- ・個別相談会：進路に迷う高校生一人ひとりの興味や疑問に寄り添い、養成校生が丁寧な対応を行った。幼児教育の魅力や進学後の意義を個別に伝え、進路選択をサポートした。実施体制は、事前の募集に応じたこども発達学科の養成校生が中心となった。

方法（対象及び効果検証の手法）

オープンキャンパススタッフとして参加した養成校生の人数及びオープンキャンパスに参加した高校生と保護者へのアンケート結果を効果検証の手法とした。

結果及び考察（実施報告及び成果）

オープンキャンパススタッフとして、のべ21名の学生が参加した。また、7～8月のオープンキャンパスに参加した高校生と保護者（113組）のうち、オープンキャンパス終了後、50名から質的アンケートの回答を得た。

アンケート結果から、「養成校生の話を直接聞いて、幼児教育に進みたいと思った」「養成校生が丁寧に対応し、幼児教育の内容も分かりやすく教えてくれた」「養成校生からアドバイスをもらい、幼児教育が学べる学科に入学したいと思った」との意見が寄せられた。

これらの結果は、養成校生が高校生に対して幼児教育の魅力を具体的かつ親しみやすく伝えることに成功したことを示している。また、施設ツアーや個別相談会を通じて、進路選択を支援する場として有効に機能したと言える。

結論（実施におけるポイント及び課題）

実施のポイント

- ・養成校生の積極的な役割：高校生に直接関わることで、親しみやすい雰囲気を作り、幼児教育の魅力を効果的に伝えることができた。
- ・体験型プログラムの有効性：施設ツアーや個別相談会を通じて、高校生が具体的に幼児教育の学びをイメージできる場を提供できた。

課題

- ・参加者のさらなる増加：より多くの高校生や保護者に参加してもらうため、広報活動の強化や SNS の効果的な活用が必要である。

これらの成果と課題を基に、次年度以降も効果的な取り組みを推進し、より多くの高校生に幼児教育の魅力を発信していきたい。

大学でのオープンキャンパススタッフの様子



取組名：I2【地域の子どもへの学びの魅力発信】

(中村 光絵)

実施時期：2024年8月(2回)、10月、11月

概要(取組内容及び実施体制)

一連の取り組みは、保育者養成校の学生が大学での学びの魅力を地域の子どもに向けて発信することを目的としている。具体的な内容は、地元の商業施設や企業、市民団体が主催する子ども向けイベントに参加し、児童文化財を用いた公演や制作ワークショップの実施である。イベント参加のきっかけは、主催者である企業や市民団体からの依頼を受けたり、大学からエントリーしたりと様々であった。

イベントの参加自体にかかわる実施体制では、学科教員及び参加学生が中心となった。子ども向けイベントに参加する学生は、都度、教員が有志学生を募った。各イベントの企画の概要について担当教員が説明した後は、学生が内容と構成を立案した。担当教員は、準備物の製作や練習場所としてこども造形実習室を開放し、イベントの内容についても、適宜、助言や相談を行いサポートした。

イベント前後の発信(広報)や企業や団体との連携については、大学の地域連携センターおよび広報センターの職員、担当教員が連携し展開した。具体的には、各イベントの告知の大学と地元企業や市民団体のHPおよび公式SNSによる発信、関連施設へのチラシの配布等である。商業施設でのイベントの場合は、それらに加えて館内放送での呼びかけやポスター掲示が実施された。

方法(対象及び効果検証の手法)

対象は、子ども向けイベントに参加した保育者養成校で学ぶ学生23名(延べ人数)である。各イベント終了後にアンケートや聞き取りを行った。

結果及び考察(実施報告及び成果)

アンケートや聞き取りの結果、「本番では、こどもの豊かな発想溢れる言葉や表情が見られて、自然と笑顔で実演ができました」「実習の時とは違い、友達と一緒に親子の前でという環境で紙芝居を演じて自分自身も楽しむ事ができ、とても貴重な時間を過ごせた」「今回紙芝居を読んで、自信がついたと思います。この経験を今後にかけて、目の前の聞いている人と一緒に楽しんでいきたいと感じました」などの回答から、直接相手の反応が見えることで、幼児教育への動機づけや自信につながっていることがわかる。また、「他の団体の出し物を見て、パネルシアターの演じ方や仕掛け・人形等の作り方がとても参考になった」「現役の幼稚園教諭が演者として参加していて、交流を持つことができよかった」などの回答もあり、イベントへの参加を通じて学びの魅力を発信するだけでなく、地域人材との交流から新たな学びを得る機会となった。この経験は、学生にとって地域つながり力育成にもつながるであろう。

結論（実施におけるポイント及び課題）

実施のポイント

- ・授業と連携した子育て支援への貢献：関連する授業で学生が考案、作成した教材を地域の親子を対象に実践し、直接、反応を得ることで保育への動機づけが高まった。
- ・地域つながり力の育成：地元企業や市民団体の方と交流しながらの打ち合わせやイベントの準備・片付けや当日参加した市民との交流を通し、学生に地域の発展に貢献できる人材としての自覚を促した。

課題

- ・参加人数が増えるほど打ち合わせや準備時間の確保が困難だったため、参加が決まった時点で早めにスケジュールを調整する必要がある。
- ・継続して学外で実践する機会を確保できると、経験による表現スキルの獲得や子どもと直接かかわることで得られる幼児教育・保育職の魅力への気づきにつながると考えられる。



第2章 各取組の実施内容及び成果

③現職教諭・離職者等を対象としたキャリア形成支援

取組 J 若手教諭に向けたホームカミングデーの実施や幼児教育の専門的知見に基づく相談の対応

取組名：J1【学びの場の提供：子育て世代へのキャリア支援】

(大神 優子)

実施時期：2024年12月

概要（取組内容及び実施体制）

卒業生による個人的な研究室や進路支援センターの訪問は随時受け入れている。イベントとしては、大学祭におけるホームカミングデーに加えて、卒業生インタビューで要望があった子育て中の卒業生に限定した子連れホームカミングデーを開催した（※）。担当教員と窓口となった卒業生の間で日時等を調整し、開催約1か月前に卒業生 LINE を通じて参加者を募った。会場となったプレイルームのマットレスや教材等は、学科内の教員と連携して整備した。

※取組 D2 の養成校生との交流と同日・連続で開催した。

方法（対象及び効果検証の手法）

参加した卒業生に、記述を中心とした web アンケートへの協力を求めた。参加人数及びこのアンケート結果を効果検証の指標とした。

結果及び考察（実施報告及び成果）

当日1組が体調不良で欠席となったが、結果として、卒業後8年目の母親（本学卒業生）7人とその子ども（生後3か月～5歳：きょうだい含む）10人の計17人が参加した。また、在学当時の担任教員もオンラインでゲストとして参加した。

web アンケートでは、7人全員の回答を得た。「今日の満足度」は平均4.9点（5点満点）と極めて高かった。自由記述では「今後のキャリアなどについて色々知れてよかった」「子育ての悩みも話したり共感したりし合えて、卒業してもこんな風に繋がれる機会があるのは嬉しい」と地元での繋がりや再会を喜ぶ声が多く寄せられた。子連れホームカミングデーは本取組をきっかけとした初めての試みであったが、今後に向けて、定期開催や他の同窓生学年グループでの開催などの希望があった。

教員や進路支援センターの職員が直接支援する他に、卒業年次が異なる卒業生同士や養成校生が顔を合わせる交流の「場」を設定することで、様々なライフステージや働き方を知り、キャリアを考える機会とすることができると考える。

結論（実施におけるポイント及び課題）

実施のポイント

- ・同学年・子連れに限定したイベント：参加者からは、全員（元）同級生で子連れ、という今回の条件が気兼ねせずすむ、と好評であった。
- ・地元の強みを活かした会場設定：地元に残る卒業生が多く、子連れでの参加がしやすい大学での開催は歓迎された。
- ・卒業生ネットワークの活用：大学 HP での告知よりも、毎年大学祭を訪問しているなど、母校との接触頻度が高い卒業生を中心とした広報（口コミ）が有効であった。

課題

- ・事前申し込みによる参加者情報の把握：今回は卒業生の一人が取りまとめる形であったが、今後は、web 上で必要情報を入力して申し込む形式も検討したい。企画当初は乳児のみの数人規模を想定しており、きょうだいの参加を受けて、急遽幼児用スペースを追加・拡張した。子どもの年齢、移動手段（ハイハイ等）、アレルギーの有無などを早めに把握して準備する必要がある。今回の参加者から、事前に誰が参加するかわかると安心、というコメントがあったため、申込者間の共有の方法とあわせて検討したい。
- ・適正規模の検討：今回の参加者は、より小規模でも参加する（したい）という意向であった。乳児・幼児のスペースの問題もあるため、実施可能な参加人数の検討が必要である。



取組名：J1【学びの場の提供：若手へのキャリア支援】

(上村 明・大神 優子)

実施時期：随時

概要（取組内容及び実施体制）

本取り組みは、若手現職教諭（卒業生含む）を中心に、大学教員から気軽に指導を受けられる機会を提供することで、教員としてのキャリア形成を支援することを目的とした。なお、卒業生による研究室や進路支援センターの訪問は随時受け入れている。

開かれた学びの場として、個別の研究室訪問のほか、養成校の授業や講演会、ホームカミングデーなどに招待し、若手現職教諭（卒業生含む）が大学教員からスーパーバイズを受けられる機会を提供した。これらは、教育活動に対する不安や疑問を解消し、成長を促すことが期待できる。また、キャリアの方向性の手掛かりを得ることで、離職を予防し、さらなる専門性の向上やモチベーションの向上につなげることができる。

実施体制について、全教員および進路支援センターが窓口となり随時訪問を受け入れられる体制を整えた。また、相談内容に応じて、専門的なアドバイスができるよう教職員間で連携を図った。

方法（対象及び効果検証の手法）

訪問した卒業生に、web アンケートまたはインタビューへの協力を求めた。個別を含む訪問人数及びこれらの結果を効果検証の指標とした。

結果及び考察（実施報告及び成果）

個人的なものでは、7-12月の半年間で20件以上の卒業生の訪問があった。訪問目的は、近況報告、就職先の園への人材確保、研修依頼、保育内容や保育現場における後輩の育成に関する相談、進学・転職相談等、多岐にわたる。就職して1、2年目の卒業生が比較的多かったが、2008年開設の本学科の2期生を筆頭に、就職後5年日以降の卒業生も珍しくなかった。また、大学への訪問以外にも、zoomによる面談や、実習訪問先や研修で卒業生から相談を受ける例があった。

インタビューでは、保育現場で働く中で大学院への進学を含む進路変更を検討し始める例や、キャリアステージに応じて相談内容が変わっていくことが示された。これらの内容の一部は「先輩の声」として、特設ページにも引用した。

結論（実施におけるポイント及び課題）

実施のポイント

- ・若手現職教諭らがアクセスしやすいよう、多様な形式（対面・オンライン）と柔軟な時間設定により実施した。
- ・相談内容等に応じて、卒業生（同学年・異学年）同士のネットワーキングを促した。

課題

- ・1～2年目の新人教諭は、支援を必要としながらも日常業務に追われて支援を受けられない状況や、“この程度で相談して良いのか”と悩んでいる例が確認された。相談の敷居を低くする工夫やフレキシブルな支援が求められる。

取組 K 体系的な現職研修の機会の確保

取組名：K1【地元自治体と連携した幼児教育研修プログラム】

(矢藤 誠慈郎)

実施時期：随時

概要（取組内容及び実施体制）

本学近隣を中心とした自治体及び自治体単位の幼児教育団体等が実施する現職教員（保育士等を含む）に対する幼児期の教育に関する研修に、本学各教員がその専門性を生かして積極的に協力した。

各教員が受けた依頼を学科長が所定の手続きを通じて把握したうえで、「地元自治体と連携した幼児教育研修プログラム」という趣旨に適う研修プログラムを本事業に位置付け、担当した教員が学科で報告・共有することとした。その際、①自治体等と協議しながら研修プログラムを構築すること、②プログラム構築に際しては、幼児教育職の魅力向上と人材確保の循環という観点を可能な限り含めること、③その一環として研修を卒業生の卒後キャリア支援の機会と位置づけて可能な範囲で個別にコミュニケーションを図ること、④自治体等の方針や各研修の性格に鑑みながらアンケートやレポートなど何らかの効果検証のプロセスを可能な限り含めること等に努めた。

研修の規模は受講者数が数十名～100名が大半であるが、研修の規模や対象者等により20名程度～400余名と幅がある。テーマは幼児教育の実践に係る諸課題を中心として、人材育成や組織マネジメントなど人材確保やそのための職場づくりに関するものも含めた。研修方法としては、講義、ワークショップなどの演習、それらを合わせたものがあり、また一回のものも継続的に実施するものがあり、特に近隣自治体と連携しての研修の場合は、継続的な取組みとなるよう努めた。

方法（対象及び効果検証の手法）

対象とした研修は、原則として、幼稚園教諭を対象としたものだけでなく、幼稚園教諭に加えて保育教諭・保育士等を含むもの、また保育士等の研修にあっては幼児教育を主な内容とするものとした。

効果検証は、自治体等の方針や各研修の性格に鑑みて、アンケート（選択式又は記述式）への回答やレポートの提出を求めることに努めたが、その様式等は多岐にわたる。また、本学卒業生が受講している場合には、多くの場合短時間ではあるが、個別に職務の状況等を聞き取ったり相談を受けたりし、卒後のキャリア支援の機会とするとともに、研修の振り返りの共有に努めた。

結果及び考察（実施報告及び成果）

実施については自治体等相手があるため、研修実施主体の意向等を踏まえつつ、手探り状

態から連携・協働を目指し、自治体等とのコミュニケーションの密度によって取組みの進展に幅があった。一方で、近隣自治体とはこれまでに築いた関係性を生かして、プログラム構築から協働し、また継続的な研修とその振り返りによって効果を実感するとともに、卒業生が多く勤務していることから、有効な卒後キャリア支援の機会とする可能性を見出すことができた。

結論（実施におけるポイント及び課題）

実施のポイント

前述の通り、以下の観点等を踏まえた取組みに努めた。

- ・自治体等と協議しながら研修プログラムを構築すること
- ・プログラム構築に際しては、幼児教育職の魅力向上と人材確保の循環という観点を可能な限り含めること
- ・その一環として研修を卒業生の卒後キャリア支援の機会と位置づけて可能な範囲で個別にコミュニケーションを図ること
- ・自治体等の方針や各研修の性格に鑑みながらアンケートやレポートなど何らかの効果検証のプロセスを可能な限り含めること

課題

- ・研修実施主体の方針があることから、本学の取組みの趣旨とのすり合わせが事前に十分に実施できた事例が近隣の一部の自治体に限られた。研修の依頼やその内容についての相談があった際には、より積極的に本取組みの趣旨を伝えて対話を重ね、幼児教育職の魅力向上と人材確保の循環につながるプログラムを構築するよう努めることが求められる。それは現場のニーズに適合することが十分に見込まれるので、そうした合意形成を目指していきたい。
- ・研修の内容や形態や規模が多岐にわたっているため、効果検証において、本学からは可能な範囲の要望という程度にとどまっており、十分にイニシアチブを取ることができていない。研修実施主体の意向が尊重されることを前提としつつも、事前の協議等を通じて、可能な限り本学の一貫した効果検証のスキームとのすり合わせを行うことが必要であろう。ただしその場合も、内容の一貫性は担保しつつ、アンケート、聞き取り、レポート等、研修の性格に応じた形式をとることが現実的であると考えられる。
- ・卒業生の卒後キャリア支援という観点から、卒業生である受講者には養成段階からの学びを含めた振り返りをしてもらいなどの工夫をすることで、養成課程の改善につながることを期待される。
- ・現状では、依頼や相談があった自治体等との連携にとどまっているが、中期的には、本学が主体となって、幼児教育職の魅力向上と人材確保のための研修プログラムを提案することで、自治体等との間のネットワークをより密にし、地域レベルで取組む気運を醸成することも今後求められると考える。

取組名：K2【地元自治体と連携した学び直しプログラム】

(田代 和美)

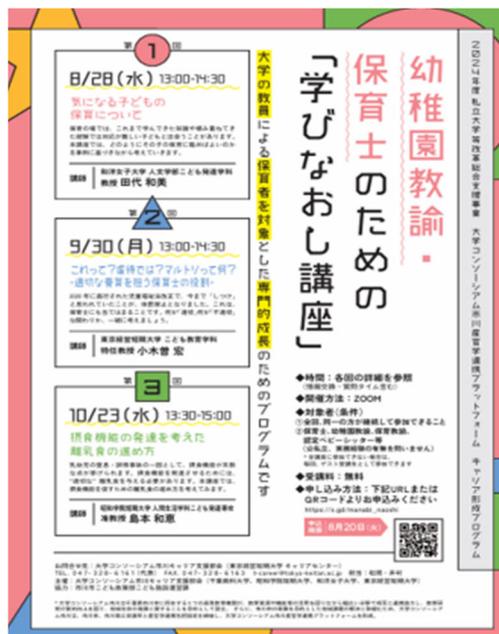
実施時期：2024年8月

概要（取組内容及び実施体制）

幼稚園教諭・保育士のための「学びなおし講座」は、大学の教員による保育者を対象とした専門的成長のためのプログラムである。このプログラムは、2024年度私立大学等改革総合支援事業の一部であり、大学コンソーシアム市川（※）産官学連携プラットフォームがキャリア形成プログラムとして開催したものの一つである。

実施体制として、大学コンソーシアム市川キャリア支援部会（千葉商科大学、昭和学院短期大学、和洋女子大学、東京経営短期大学）が主催し、市川市こども政策部こども施設運営課の協力を得て開催された。

本年度の幼稚園教諭・保育士のための「学びなおし講座」は、8月28日（水）・9月30日（月）・10月23日（水）の全3回、ZOOMで開催された。対象者は、幼稚園教諭、保育士、保育教諭、認定ベビーシッター等であるが、公私立、実務経験の有無を問わずに参加は可能であった。受講料は無料であった。本学科が担当したのは、そのうちの第1回、8月28日（水）13:00－14:30の「気になる子どもの保育について」の講座である。保育現場での事例に基づいて、気になる子どもの保育についての講義を行い、その後、質疑応答の時間を設けた。



方法（対象及び効果検証の手法）

対象は主に市川市内の私立幼稚園・認定こども園・私立保育園・小規模保育所の現役保育者である。参加人数及び参加者に実施した事後アンケートを効果検証の指標とした。

※大学コンソーシアム市川は、千葉縣市川市に所在する5つの高等教育機関が、教育資源や機能等の活用を図りながら幅広い分野で総合に連携協力し、教育研究の質的向上を図り、地域社会の発展に資することを目的として設立された。さらに、市川市の発展を目的とした地域課題の解決に取り組むため、大学コンソーシアム市川は、市川市、市川商工会議所と産官学連携包括協定を締結し、大学コンソーシアム市川産官学連携プラットフォームを形成している。

結果及び考察（実施報告及び成果）

市川市を中心に千葉県内自治体等で運営している幼稚園・認定こども園・私立保育園・小規模保育所など資格保持者 51 人の参加を得た。

アンケート結果では、大変満足と満足が 80%であった。「事例に基づいた内容で、実務でいかしやすいプログラムであった」などポジティブなコメントが多かったほか、「気になる子どもへの対応を見直すきっかけになった」「子ども理解を深めることの大切さを再認識した」などの多くの感想と質問が寄せられた。また質疑の時間には、保育現場での具体的な事例についての質問が多く寄せられ、関心の高さが伺えた。講座に参加した現役の保育者を通じ、園と大学（養成校生）のつながりの一翼を担うことができた。

結論（実施におけるポイント及び課題）

実施のポイント

- ・平日の勤務時間内での ZOOM による開催：勤務時間中に研修として参加することが可能だった。
- ・地域との連携：市川市内の大学教員と行政が連携して、現場に資するプログラムを開催した。

課題

- ・参加者数の拡大：広報方法を見直し、より多くの幼稚園教諭・保育士が参加できる環境を整備する必要がある。
- ・シリーズ開催：全 3 回でひとつのプログラムと想定していたが、全ての回に参加できない受講者もいた。
- ・開催方法：ZOOM による開催は参加しやすいメリットもあるが、質疑では、それぞれの現場での具体的な悩みが語られた」ため、双方向性を担保する必要がある。

今後はこれらの課題を改善し、地元自治体と連携した学び直しプログラムの質向上に取り組むことが求められる。

第3章 事業全体のまとめ

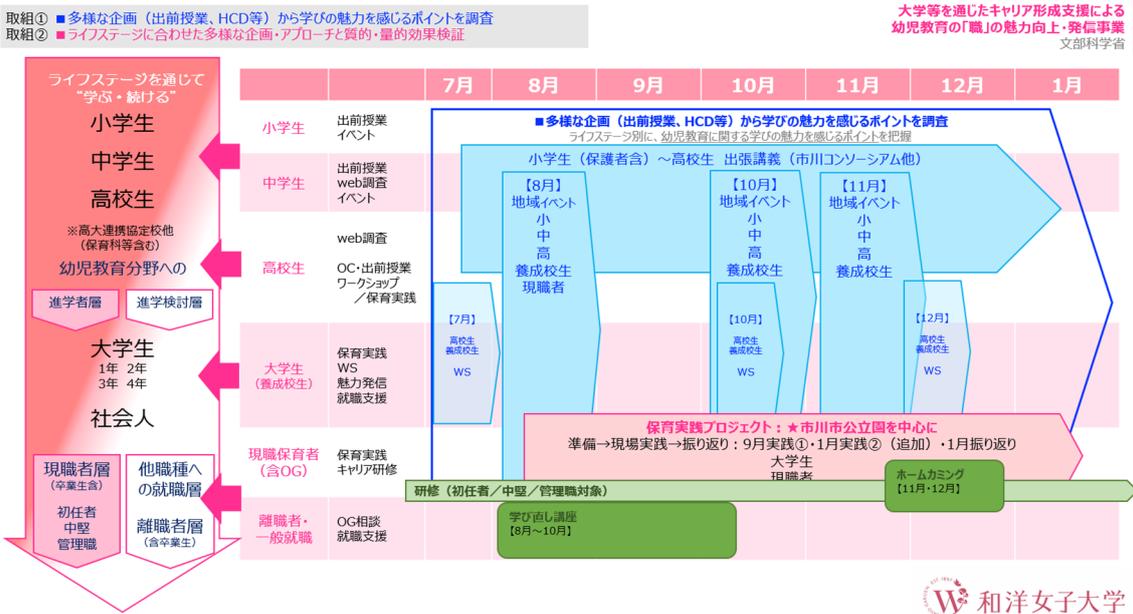
3-1.事業全体スケジュール

和洋女子大学こども発達学科では7月の事業開始以降、幼児教育の「職」の魅力向上・発信について、①web 上の特設ページを中心とした広範囲への発信及び②地元でのライフステージごとの様々な対面での取組で企画・実施してきた。

広範囲への情報発信については概ね下図に示した予定通り進行し、7月下旬の web 調査をもとに素材を作成し、11月から特設ページを公開することができた。



対面での取組については、当初 6 月からの開始を想定していたために協定校や外部講師との日程調整が間に合わず、いくつかのイベントは見送りや変更を余儀なくされた。しかし、事業の途中で新たに企画されたイベントや養成校生自身からの希望で追加された保育実践もあり、全体としては概ね予定通り進行することができた。主要なものを下図に示す。



この約半年間ほぼ切れ目なく、それぞれのライフステージに対して幼児教育の「職」の魅力について働きかけてきたことになる。

3-2.事業全体の成果

和洋女子大学こども発達学科では、「地元で「学ぶ・続ける」幼児教育－ライフステージに合わせたアプローチ」をテーマとして、学科教員全員が各自の専門性を活かしつつ様々な取組を行ってきた。事業開始から報告書の完成まで約半年間という限られた期間であり、紙幅と時間の制約からこの報告書で全ての詳細をあげることは控えたが、多岐にわたる取組を実施することができた。

第2章では、他の養成校等が実施する際に参考になるであろう情報を中心にまとめるよう心がけ、①小中高生を対象とした職の魅力発信、②養成校を対象としたキャリア形成支援、③現職教諭・離職者等を対象としたキャリア形成支援に大別し、合計23の取組に整理して報告した。

これらを踏まえて、以下では本事業全体の成果について発信範囲別に述べる。

3-2-1.広範囲への発信の成果

まず、web上の特設ページを中心とした広範囲への発信では、養成校入学の前段階である中学生・高校生に訴求する内容にするべく、中学生～大学生を対象とした大規模アンケートを実施した。

少子化以上のペースで幼児教育・保育の志願者が減少してきている背景として、事業開始当初は、昨今の不適切保育等によるイメージダウンからの保護者の反対を想定していた。しかし、今回の調査から、保護者に相談はしていても反対されたという回答は少なく、志願者自身もつ大変そうというイメージ（中学生時点）や、待遇面での不安（高校生・大学生時点）によって、幼児教育・保育の職から気持ちが離れていくことが示された。また、これらの不安によって離れていく層でも一定数は、待遇面等が解消されることで再び幼児教育・保育の職を目指す可能性があることも示された。

これらの結果や卒業生へのインタビューを参考に、情報を集約した特設ページを11月から公開した。この特設ページ及びページ内に掲載した様々なデータをまとめた動画や実際に働くロールモデルのインタビュー動画への注目度は高く、この報告書執筆時点までに多く閲覧されている。単純比較はできないものの、これまで大学HPで単発で掲載してきた動画と比較すると3倍以上の再生回数になったものもあった。広範囲に高い関心を集めるアプローチとして、単独の発信よりも総合的に提示する方が効果的であることが示された。なお、現在も集計を継続しており、どのようにアクセスされたかのより詳しい解析結果については別に報告する予定である。

以上のように、幼児教育・保育の将来の担い手である中学生・高校生・大学生の進路変更のタイミングとその理由を明らかにし、各対象者にどのように働きかけることが幼児教育の職の魅力発信、ひいては人材確保に有効かを示すことが出来たのは、本事業の成果の一つ

である。

3-2-2.地域への発信（対面）の成果

大学及び大学周辺の地域における発信では、乳幼児から既卒生・ベテランまでの幅広い層を対象とした対面での取組を実施してきた。学科企画の取組では、取組による変化がわかるように「(参加してみて) 幼児教育への興味や関心が高まった」などの項目を工夫した統一アンケートを実施した。最終的に、オープンキャンパスや出前授業を除いた高校生参加者のべ90人、養成校生参加者のべ572人から回答を得て、これらの取組の有効性を示すことができた。「今後も参加したい」という回答からは、これらの取組の参加者が引き続き幼児教育に関心を持ち続け、将来を担う人材になり得ることを示している。

今回の取組では、受験生や就職を控えた4年生ばかりを対象としたわけではなかったため、短絡的に受験者数や幼稚園への就職率に顕著な変化があったわけではない。しかし、高校単位で参加したワークショップや大学での講義の受講生(高校2年生)が、その後オープンキャンパスに保護者を連れてくるなど、具体的な進路選択に結びついていることを示す例があった。保護者からは「娘がすごく楽しかったと話していたので自分も興味が出てきて」と嬉しいお言葉を頂いた。進路を相談する相手である保護者や高校教員の理解を得るためにも、前述のwebページや各種の取組は有効であると考えられる。

また、養成校の在籍生を主な対象とした取組では、特に、養成校生と高校生、上級紙と下級生、現職保育者と養成校生などの多層的な交流の効果が顕著であった。ワークショップや実習の振り返りでの交流の他、学年を超えた保育実践プロジェクトでは、上級生の部分保育実践を下級生が直接見たり、異学年で保育教材や演じ方の工夫や配慮などについて話したりするなど活発な交流が行われた。養成校生達にとって、身近な先輩ロールモデルから学ぶとともに、後輩や高校生に接することで自身の振り返りの機会にもなっていた。

さらに、単独の取組だけではなく、保育実践後にワークショップを受講し、そのワークショップで学んだことを活かして次の保育実践へ、という有機的な繋がりが奏功していた。当初予定していた夏の実践だけではなく、養成校生自身の希望で冬も幼稚園等を訪問し、さらに次年度への計画を立て始める等、今後続く成果があがっている。

なお、成果物として作成したものに、特設webページとそのアクセス解析報告の他に、印刷物として本報告書、リーフレット、音楽表現アイデア集がある。これらは今後、地域を中心とした情報発信や、これからの新入生を含む養成校生の保育実践に活用していく予定である。

3-3.事業全体から見えてきた課題

養成校としては、人材を逃している大きな要因と考えられる待遇面を直接的に解決することは難しい。しかし、今回の事業の結果から、養成校としての取組として、以下の方向性があげられる。

対象	養成校としての取組の方向性
入学前（中高生）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広範囲への情報提供（「大変そう」イメージの低減） ・ （協定校等の地域の生徒へ）見通しをもった体験の提供
在籍時	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多層的交流及び継続的な実践・振り返りの機会の提供 ※身近なロールモデルとの交流を含む
卒業後	<ul style="list-style-type: none"> ・ 若手教諭へのフォロー：気軽に相談できる機会の提供 ・ 卒業生ネットワーク作り

本事業の実施にあたっては養成課程である学科の教員全員がかかわったが、学科のみでは難しい部分も多かった。こうした部分については、研究支援課をはじめとする大学事務局の全面的なサポートを受けた。高校生がかかわるイベントや地域イベントでは、高大連携支援室の他、入試・広報センター、地域連携センターが窓口となり、調整や広報面での発信を担った。また、市川コンソーシアムを含む他大学や自治体とのやりとり、現役生の就職活動や離職者対応に関しては、進路支援センターが主体となった部分が多い。本学ではこれらの連携がスムーズに進んだが、養成校の規模や体制によっては、こうした連携体制が課題となる可能性がある。

なお、幼児教育・保育系の進路を希望する生徒の特徴として、地元での進学・就職を希望する傾向が高いことが示された。人材確保にあたっては、より一層地域と連携した取組が重要であろう。

3-4. 今後の展開

広範囲の発信に用いた特設 web ページについては、事業終了後は本学の情報管理部門に管轄を移して、公開・運用を続けていく予定である。アクセス解析についても継続を予定しており、どのようなタイミングでの発信が有効かのデータを蓄積していく。

地域の幼稚園等の協力を得ての学年を超えた保育実践は、今回が初めての試みであった。まずは課外プロジェクトとして希望者を募って実施したが、今後は正規のカリキュラムに組み込むことを想定し、その際の運用上の問題について詰めているところである。

また、卒業生ネットワークについても、従来の個別対応から組織的に拡大・運用するためのヒントが得られた。次年度以降はこれらの強化のための取組を開始する予定である。

本事業の実施にあたっては、幼児教育・保育施設や企業をはじめとする地域の皆様に多くのご協力を頂いた。心より御礼を申し上げる。

地域に根ざした大学として、幼児教育の職をこれから担う人々がライフステージにあわせて学び続けていくための支援体制を確立できるよう、学科教職員一同、今後も励んでいく所存である。

引用文献・参考資料等

LP

こども家庭庁 成育局（2023）令和 5 年度全国保育士養成セミナー こども家庭庁における保育行政の動向と課題

https://www.hoyokyo.or.jp/gyousei_0901.pdf

（一社）全国高等学校 PTA 連合会・（株）リクルート（2024）第 11 回 「高校生と保護者の進路に関する意識調査」 2023 年報告書 p.39

https://souken.shingakunet.com/research/.assets/2023_hogosha3.pdf

令和 4 年賃金構造基本統計調査 結果の概況

<https://www.mhlw.go.jp/toukei/itiran/roudou/chingin/kouzou/z2022/dl/13.pdf>

（2024 年 10 月 9 日閲覧）

令和 5 年賃金構造基本統計調査 結果の概況

<https://www.mhlw.go.jp/toukei/itiran/roudou/chingin/kouzou/z2023/dl/03.pdf>

（2024 年 10 月 9 日閲覧）

令和 6 年賃金構造基本統計調査 速報

<https://www.mhlw.go.jp/toukei/itiran/roudou/chingin/kouzou/z2024/dl/sokuhou.pdf>

（2025 年 1 月 16 日閲覧）

不動産・住宅情報サイト LIFULL HOME'S 34 歳以下の女性の一人暮らし、費用はどのくらいかかる？ 家賃や初期費用、生活費の目安

https://www.homes.co.jp/cont/rent/rent_00890/

（2024 年 10 月 9 日閲覧）

転職・求人 doda（デューダ） 20～65 歳の会社員（サラリーマン）の平均年収は？ 平均年収ランキング（年齢別・年代別の年収情報）【最新版】

<https://doda.jp/guide/heikin/age/>

（2024 年 10 月 9 日閲覧）

インフォ動画

(一社) 全国高等学校 PTA 連合会・(株) リクルート (2024) 第 11 回 「高校生と保護者の進路に関する意識調査」 2023 年報告書

こども家庭庁成育局保育政策課 (2023) 第 5 回 子ども・子育て支援等分科会・資料

大正大学地域構想研究所 (2023) 最新国勢調査からみる職業変化「この 5 年で増えた職業・減った職業」

(独) 労働政策研究・研修機構 (2024) 早わかりグラフでみる長期労働統計 専業主婦世帯と共働き世帯 1980 年～2023 年

こども家庭庁 成育局 (2023) 令和 5 年度全国保育士養成セミナー こども家庭庁における保育行政の動向と課題

(独) 労働政策研究・研修機構 (2023) 看護師、介護職員、保育士、幼稚園教諭を対象とした処遇改善事業の有効性の検討に向けてー先行研究レビューを手がかりとして

経済協力開発機構 (2018) OECD Social, Employment and Migration Working Papers

こども家庭庁 (2023) 参考資料集
https://www.cfa.go.jp/assets/contents/node/basic_page/field_ref_resources/81755c56-2756-427b-a0a6-919a8ef07fb5/18e3aa55/20230402_policies_03.pdf

國學院大學 (2024) 「幼児教育のプロフェッショナルリズム育成プログラムの開発」研究成果報告書

東京都福祉局 (2023) 令和 4 年度東京都保育士実態調査結果

こども家庭庁 (2023) 幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン (はじめの 100 か月の育ちビジョン)

資料

全体キックオフ MTG (2024年7月23日) 大学資料

web アンケート (中学生・高校生・大学生)

参加者アンケート

卒業生アンケート

地元で「学ぶ・続ける」幼児教育

—ライフステージに合わせたアプローチ—

和洋女子大学人文学部
こども発達学科



本学の特徴

- ・2008年の開設以来、地元から高校生を積極的に受け入れ多くの幼稚園教諭を輩出

→地元就職率約90%、保育職約80~100%

幼児教育から離れていく生徒・養成校生・現職者

- ・社会的イメージから他に進路を変更する中・高校生
- ・実践経験の不足によるプレッシャーや不安から幼児教育以外の道を選ぶ養成校生
- ・就職後も体系的に学び続ける機会を得られない or ライフステージの変化による離職者

→ ライフステージごとの学び & 学ぶことの魅力をイメージ

→ 感動体験の蓄積



本事業の目的

本事業の目的は、地元での人材育成循環を念頭に、
一定数の生徒・養成校生・現職者が
幼児教育から離れていく理由と
ライフステージごとの課題を把握し、
その情熱を再燃させる方策の手がかりを得ることである。

方法

取組① 幼児教育から離れていく理由とライフステージごとの課題を把握

- 女子中・高・大学生を対象に地元定着率・離れていく時期・理由などを調査 (量的調査)

中・高・(大)

ライフステージ別に、幼児教育に関するポジティブな体験と社会的イメージとの乖離を把握

- 多様な企画 (出前授業、HCD等) から学びの魅力を感じるポイントを調査 (量・質的調査)

小・中・高・大・社

ライフステージ別に、幼児教育に関する学びの魅力を感じるポイントを把握

取組② 情熱を維持・再燃させる方策の検討

- 取組①の成果を踏まえ、正確かつポジティブな情報を発信し効果を検証 (量的調査)

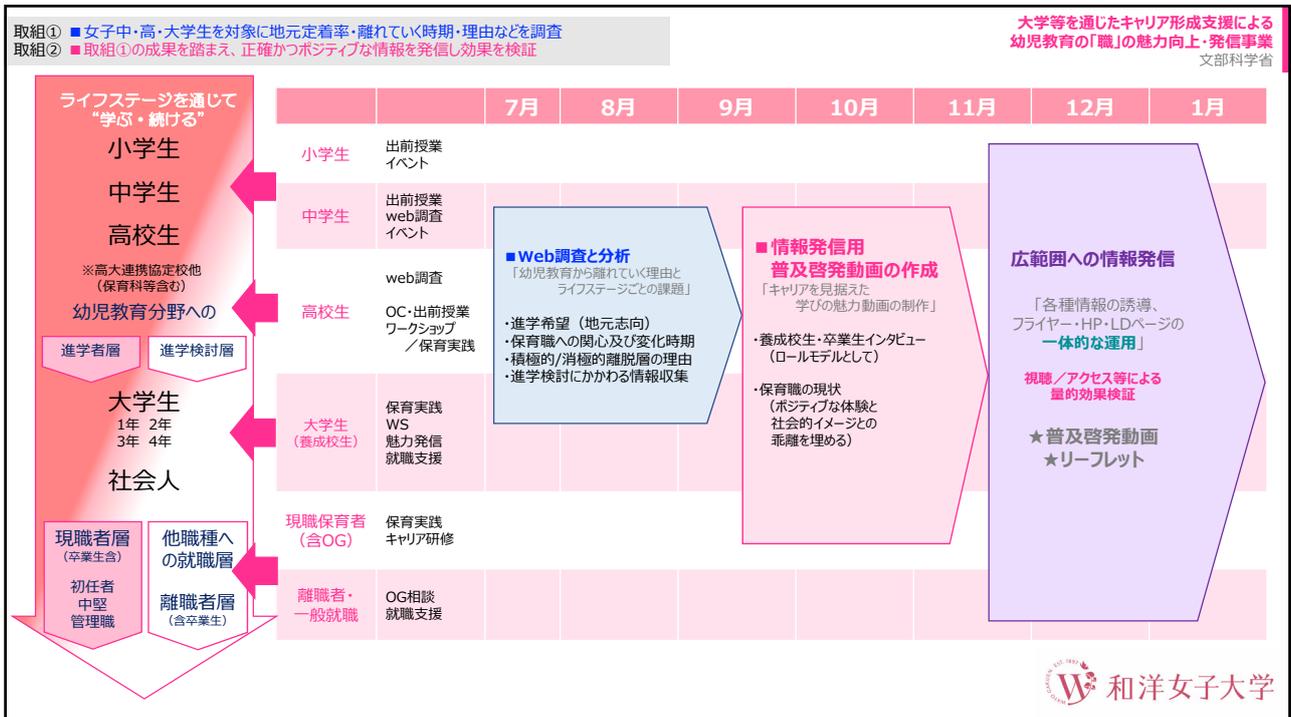
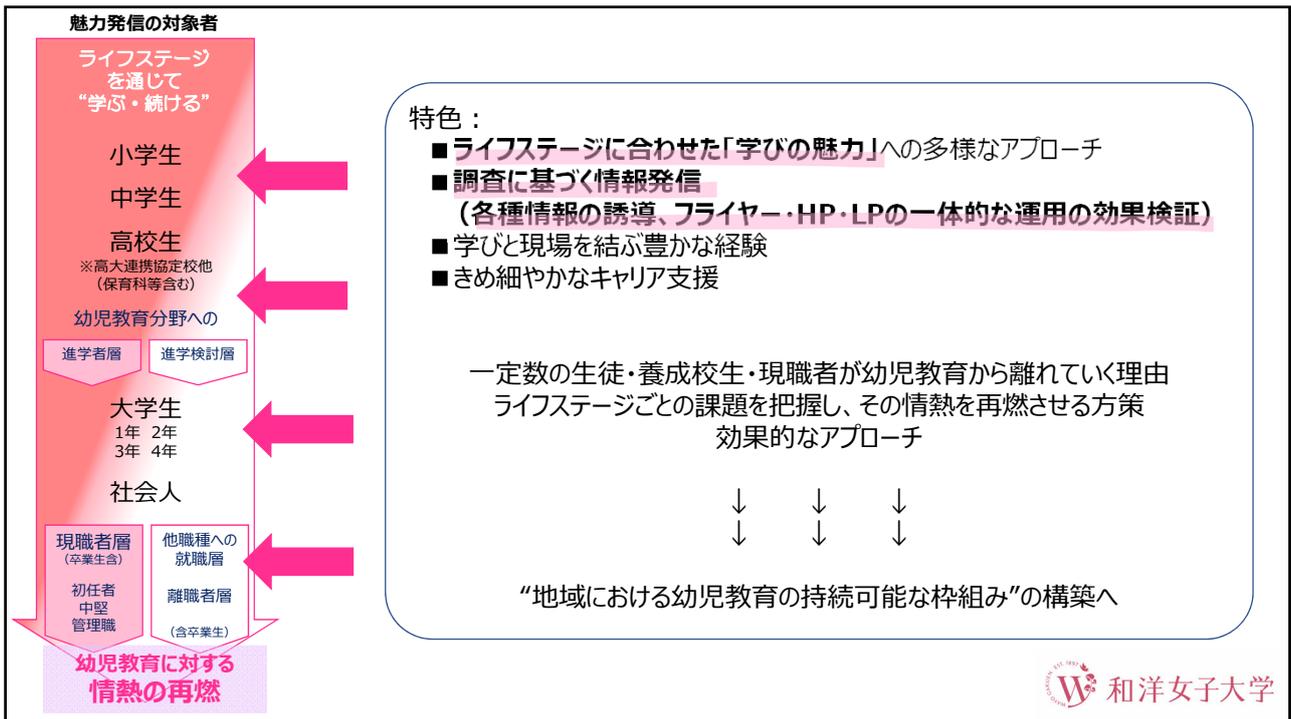
高・大・保護者
(社会人)

キャリア (= ライフステージ) を見据えた学びの魅力動画の制作、LP等を活用した配信運営

- ライフステージに合わせた多様な企画・アプローチと質的・量的効果検証 (量・質的調査)

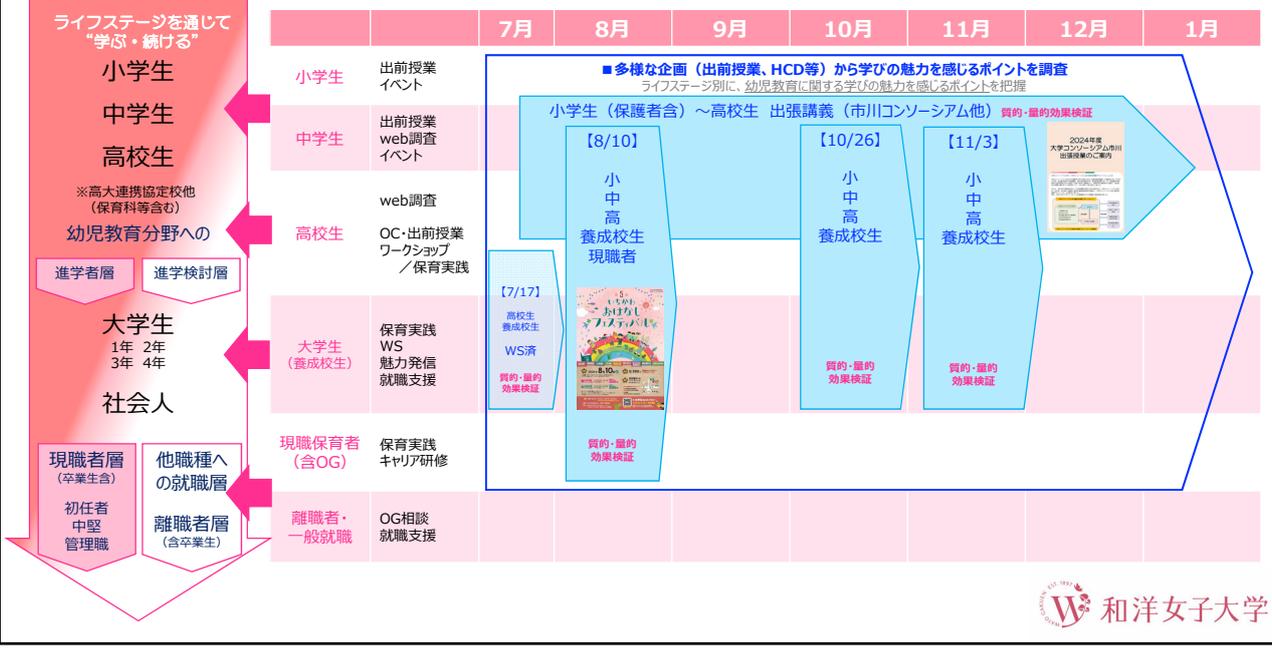
高・大・社

学びの面白さに焦点を当てた感動体験の蓄積



取組① ■多様な企画（出前授業、HCD等）から学びの魅力を感ずるポイントを調査
 取組② ■ライフステージに合わせた多様な企画・アプローチと質的・量的効果検証

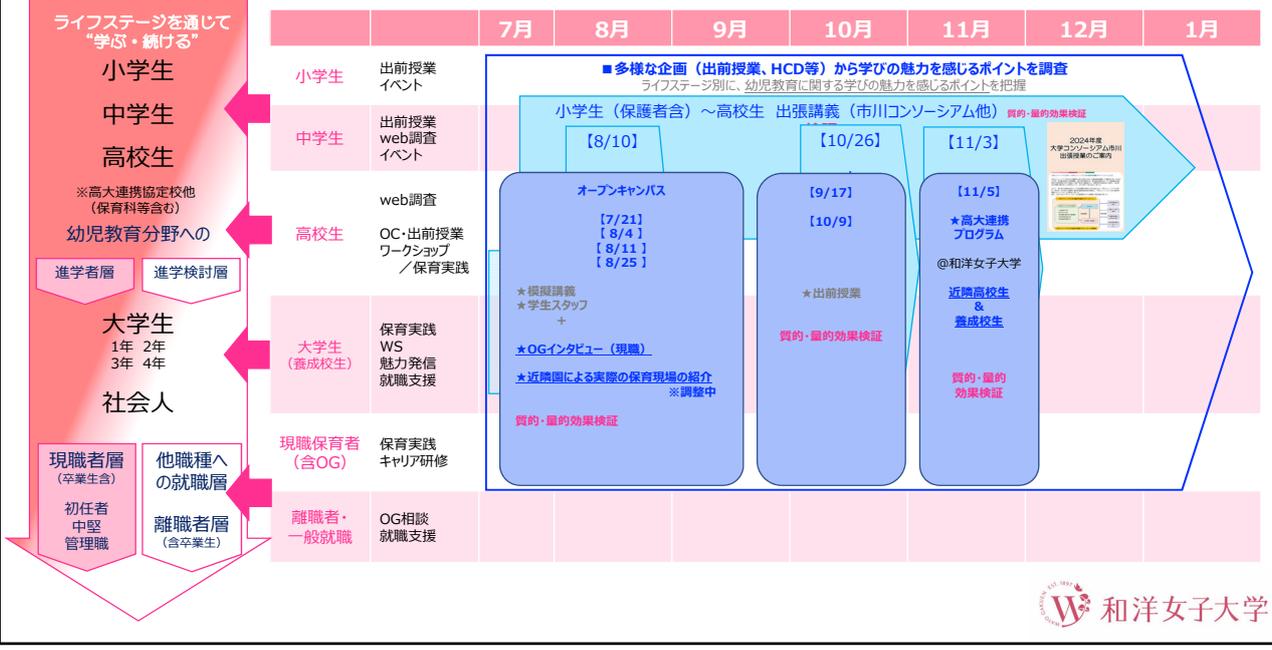
大学等を通じたキャリア形成支援による
 幼児教育の「職」の魅力向上・発信事業
 文部科学省



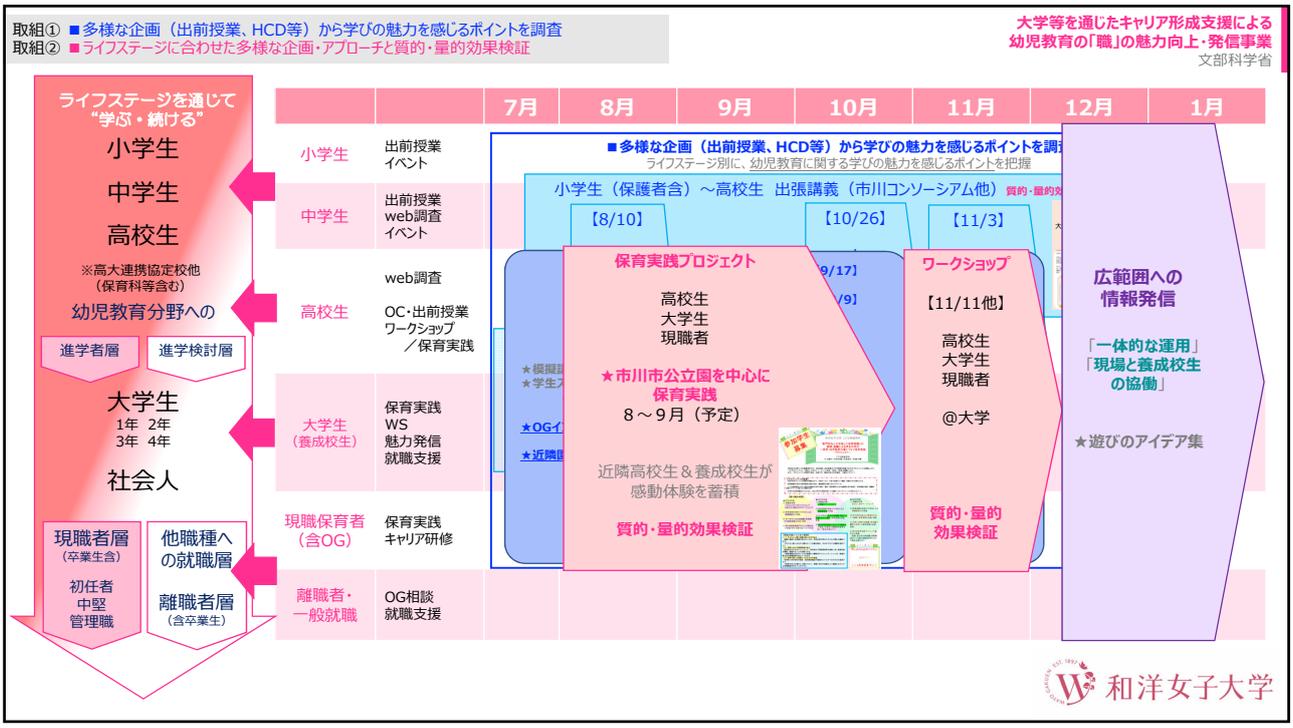
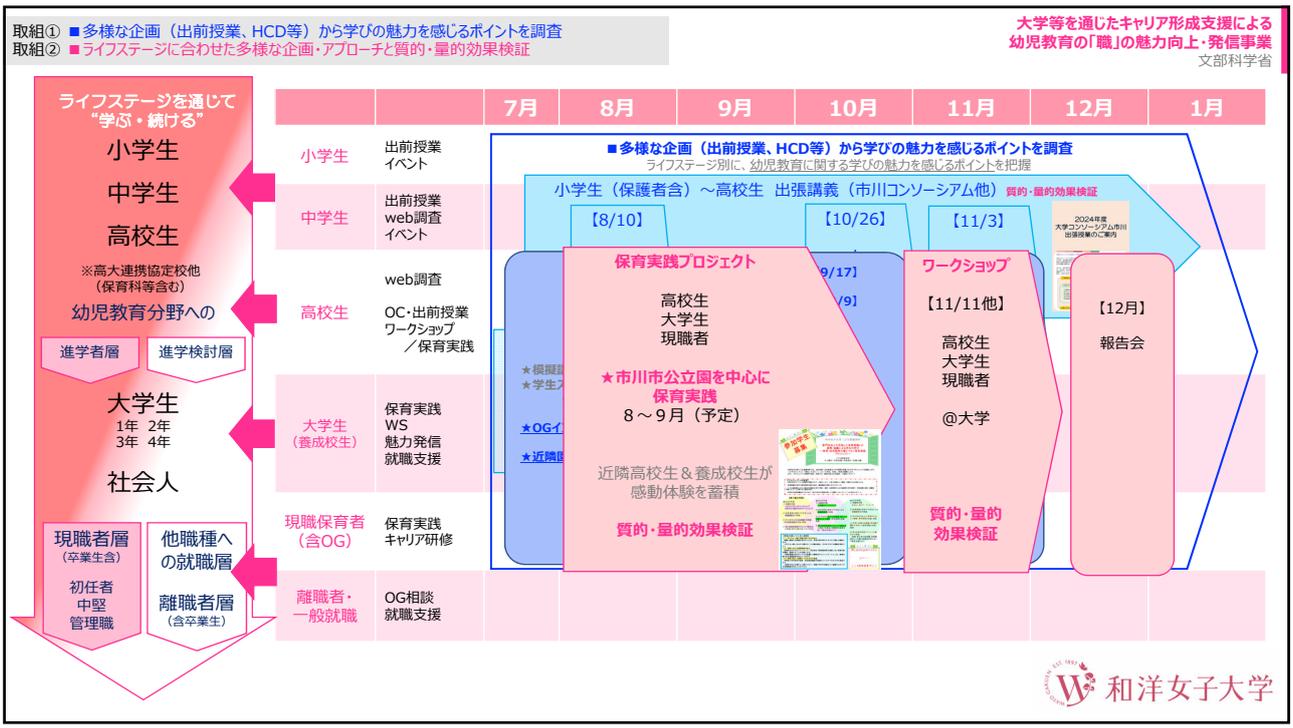
和洋女子大学

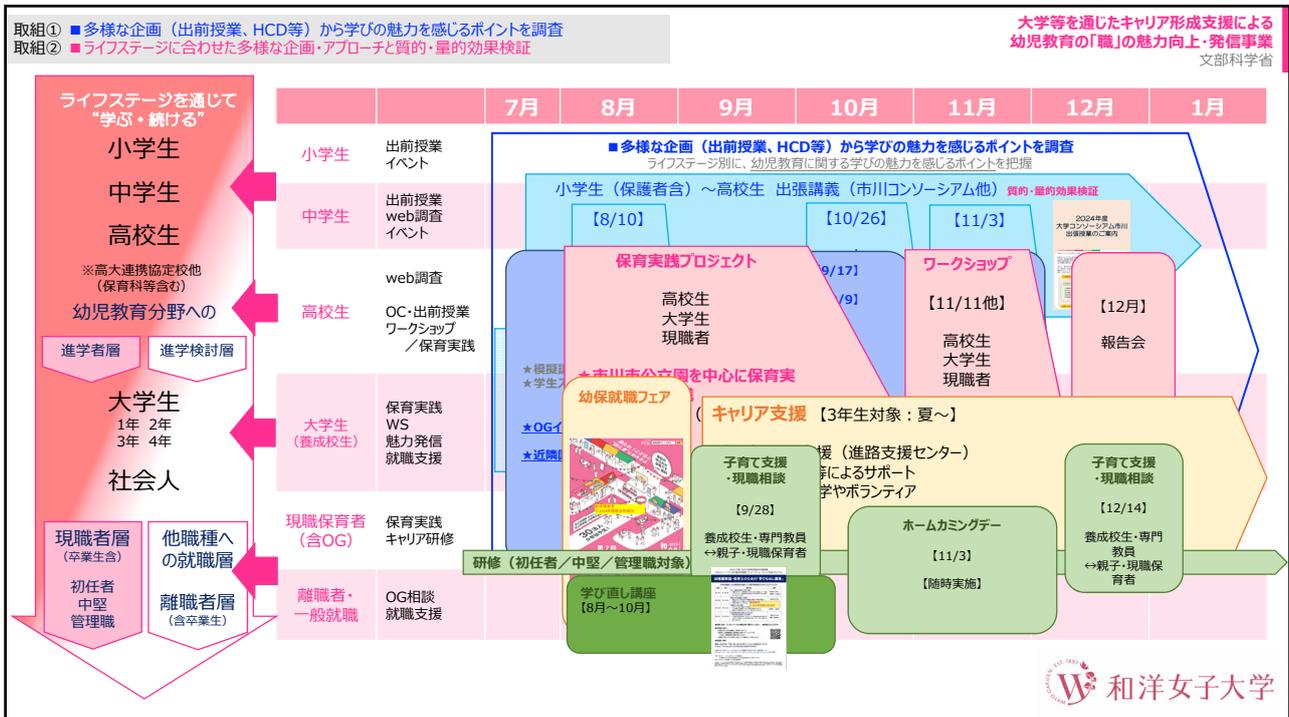
取組① ■多様な企画（出前授業、HCD等）から学びの魅力を感ずるポイントを調査
 取組② ■ライフステージに合わせた多様な企画・アプローチと質的・量的効果検証

大学等を通じたキャリア形成支援による
 幼児教育の「職」の魅力向上・発信事業
 文部科学省



和洋女子大学





【和洋女子大学】進学や就職についてのアンケート

アンケートの回答にご協力お願いいたします。
所要時間2分～5分程度

* 必須の質問です

注：実際のアンケート項目はGoogleフォームによる
分岐形式で、レイアウト等は異なる。
ここでは、個人情報や同意にかかわる質問部分を除
く全ての分岐先の項目を掲載した。
高校生・大学生編も同様。

3. あなたの住んでいる都道府県を教えてください *

1つだけマークしてください。

- 北海道 質問4にスキップします
- 青森県 質問4にスキップします
- 岩手県 質問4にスキップします
- 宮城県 質問4にスキップします
- 秋田県 質問4にスキップします
- 山形県 質問4にスキップします
- 福島県 質問4にスキップします
- 茨城県 質問4にスキップします
- 栃木県 質問4にスキップします
- 群馬県 質問4にスキップします
- 埼玉県 質問4にスキップします
- 千葉県 質問4にスキップします
- 東京都 質問4にスキップします
- 神奈川県 質問4にスキップします
- 新潟県 質問4にスキップします
- 富山県 質問4にスキップします
- 石川県 質問4にスキップします
- 福井県 質問4にスキップします
- 山梨県 質問4にスキップします
- 長野県 質問4にスキップします
- 岐阜県 質問4にスキップします
- 静岡県 質問4にスキップします
- 愛知県 質問4にスキップします
- 三重県 質問4にスキップします
- 滋賀県 質問4にスキップします
- 京都府 質問4にスキップします
- 大阪府 質問4にスキップします
- 兵庫県 質問4にスキップします
- 奈良県 質問4にスキップします
- 和歌山県 質問4にスキップします

- 鳥取県 質問4にスキップします
- 島根県 質問4にスキップします
- 岡山県 質問4にスキップします
- 広島県 質問4にスキップします
- 山口県 質問4にスキップします
- 徳島県 質問4にスキップします
- 香川県 質問4にスキップします
- 愛媛県 質問4にスキップします
- 高知県 質問4にスキップします
- 福岡県 質問4にスキップします
- 佐賀県 質問4にスキップします
- 長崎県 質問4にスキップします
- 熊本県 質問4にスキップします
- 大分県 質問4にスキップします
- 宮崎県 質問4にスキップします
- 鹿児島県 質問4にスキップします
- 沖縄県 質問4にスキップします

進学先・就職先についての質問です

4. 進学先は、地元を希望しますか ※市区町村、都道府県にこだわらずあなたが「地元」と考える範囲でお答えください *

1つだけマークしてください。

- 希望する
- どちらかといえば希望する
- どちらかといえば希望しない
- 希望しない

5. 就職先は、地元を希望しますか *

1つだけマークしてください。

- 希望する
- どちらかといえば希望する
- どちらかといえば希望しない
- 希望しない

大学についての質問です

6. あなたが大学で学んでみたい分野を教えてください（複数回答可） *

当てはまるものをすべて選択してください。

- 保育・幼児教育系
- 学校教育系
- 人文学系（文化、文学、語学、心理学等）
- 社会学系（国際、法・経済、観光・ビジネス等）
- 医、看護、薬学系
- 栄養系（食品、食物含）
- 被服系
- 福祉系
- 理工学系（農学、情報学含）
- その他（例：体育・スポーツ、芸術など）
- わからない

質問7にスキップします

幼稚園教諭や保育士についての質問です

7. 幼稚園教諭や保育士は、指定の大学等で必要な単位を修得することで得られる免許・資格です。このことを知っていましたか *

1つだけマークしてください。

- 知っていた
- 知らなかった

8. これまで、就きたい職業として「幼稚園教諭・保育士」を考えたことはありますか *

1つだけマークしてください。

- 現在も就きたい職業の一つである 質問 15 にスキップします
 候補の一つだったが、現在は考えていない 質問 9 にスキップします
 考えたことはない 質問 13 にスキップします

『候補の一つだったが、現在は考えていない』と答えた方に質問です

9. 「幼稚園教諭・保育士」の職から気持ちが離れたのはいつごろですか *

1つだけマークしてください。

- 小学校（低学年）
 小学校（中学年）
 小学校（高学年）
 中学校

10. 「幼稚園教諭・保育士」の職から気持ちが離れた理由にはどのようなものがありますか（複数回答可） *

当てはまるものをすべて選択してください。

- 他にやりたい仕事があったから
 自分の適性を考えたから
 責任が重そうだから
 心身ともに大変そうだから
 給与が低そうだから
 昇進等が期待できなさそうだから
 親や家族から反対されたから
 その他: _____

11. あなたが高校を決めるときに重視することを教えてください（複数回答可） *

当てはまるものをすべて選択してください。

- 学べること、カリキュラム
 取得できる資格
 学力・偏差値
 入試制度
 学費・奨学金
 留學制度
 進学先、進学率
 校風や学校の雰囲気
 施設・設備
 交通の便
 教員のプロフィール、教員の充実
 部活動
 他者のすすめ（家族、中学校の先生、塾の先生など）
 同じ学校の出身者や知人がいる
 その他: _____

12. 近年、「幼稚園教諭・保育士」の職は、働き方改革や処遇改善が大きく進んでいます。これらが進んだ場合、再び「幼稚園教諭・保育士」を目指す可能性はありますか *

1つだけマークしてください。

- とてもある
 どちらかといえばある
 どちらともいえない
 どちらかといえばない
 まったくない

質問 18 にスキップします

『考えたことはない』と答えた方に質問です

13. あなたが高校を決めるときに重視することを教えてください（複数回答可） *

当てはまるものをすべて選択してください。

- 学べること、カリキュラム
 取得できる資格
 学力・偏差値
 入試制度
 学費・奨学金
 留學制度
 進学先、進学率
 校風や学校の雰囲気
 施設・設備
 交通の便
 教員のプロフィール、教員の充実
 部活動
 他者のすすめ（家族、中学校の先生、塾の先生など）
 同じ学校の出身者や知人がいる
 その他: _____

14. 近年、「幼稚園教諭・保育士」の職は、働き方改革や処遇改善が大きく進んでいます。これらが進んだ場合、「幼稚園教諭・保育士」を目指す可能性はありますか *

1つだけマークしてください。

- とてもある
 どちらかといえばある
 どちらともいえない
 どちらかといえばない
 まったくない

質問 19 にスキップします

『現在も就きたい職業の一つである』と答えた方に質問です

15. あなたが高校を決めるときに重視することを教えてください（複数回答可） *

当てはまるものをすべて選択してください。

- 学べること、カリキュラム
 取得できる資格
 学力・偏差値
 入試制度
 学費・奨学金
 留學制度
 進学先、進学率
 校風や学校の雰囲気
 施設・設備
 交通の便
 教員のプロフィール、教員の充実
 部活動
 他者のすすめ（家族、中学校の先生、塾の先生など）
 同じ学校の出身者や知人がいる
 その他: _____

16. 「幼稚園教諭・保育士」のための進学先を選ぶ時に重視することを教えてください（複数回答可） *

当てはまるものをすべて選択してください。

- 4年制で専門学校や短大と異なり深く学べる
 少人数制である
 実習先を自分で選べる
 実習先を大学が選んでくれる
 実習以外にも保育実践の機会がある
 保育・幼児教育分野への就職率が高い
 公務員試験の合格率が高い
 幼稚園教諭・保育士の両方の免許・資格が取れる
 就職支援が手厚い
 初心者や経験者のレベルにあわせたピアノの指導が受けられる
 その他: _____

質問 17 にスキップします

進路（進学先や将来の職業）についての質問です（幼稚園教諭・保育士が候補の方向け）

17. 進路（進学先や将来の職業）を考える上で参考にしたり影響を受けたりするものを教えてください（複数回答可）

当てはまるものをすべて選択してください。

- 親（保護者）
 きょうだい
 親（保護者）やきょうだい以外の親族
 学校の先生
 塾の先生
 先輩
 友達
 新聞・雑誌
 テレビ
 インターネットやSNS
 その他: _____

質問 20 にスキップします

進路（進学先や将来の職業）についての質問です（過去に幼稚園教諭・保育士志望だった方向け）

18. 進路（進学先や将来の職業）を考える上で参考にしたり影響を受けたりするものを教えてください（複数回答可）

当てはまるものをすべて選択してください。

- 親（保護者）
 きょうだい
 親（保護者）やきょうだい以外の親族
 学校の先生
 塾の先生
 先輩
 友達
 新聞・雑誌
 テレビ
 インターネットやSNS
 その他: _____

質問 21 にスキップします

進路（進学先や将来の職業）についての質問です（幼稚園教諭・保育士を志望したことがない方向け）

19. 進路（進学先や将来の職業）を考える上で参考にしたり影響を受けたりするものを教えてください（複数回答可）

当てはまるものをすべて選択してください。

- 親（保護者）
 きょうだい
 親（保護者）やきょうだい以外の親族
 学校の先生
 塾の先生
 先輩
 友達
 新聞・雑誌
 テレビ
 インターネットやSNS
 その他: _____

質問 21 にスキップします

就職先についての質問です（幼稚園教諭・保育士志望の方向け）

20. 将来、「幼稚園教諭・保育士」として働きたいと考えている就職先を教えてください（複数回答可）

※近年増えている認定こども園に就職するには、両方の免許・資格が必要です

当てはまるものをすべて選択してください。

- 公立の幼稚園・保育所・こども園（公務員）
 私立（企業や院内含む）の幼稚園・保育所・こども園
 乳児院・児童養護施設などの児童福祉施設
 その他: _____

女性の働き方についての質問です

21. 日本のジェンダーギャップ（男女格差）は、146カ国中118位という報告があります。女性が生涯にわたってどこでも働ける資格や専門職に興味はありますか

1つだけマークしてください。

- とても興味がある
 どちらかといえば興味がある
 どちらでもない
 どちらかといえば興味はない
 まったく興味はない

22. 女子大学では、女性のライフステージに合わせたキャリア教育や支援が充実していると言われています。どの程度魅力を感じますか

1つだけマークしてください。

- とても魅力を感じる
 どちらかといえば魅力を感じる
 どちらでもない
 どちらかといえば魅力を感じない
 まったく魅力を感じない

アンケートのご回答ありがとうございました。

【和洋女子大学】進学や就職についてのアンケート

アンケートの回答にご協力お願いいたします。
所要時間2分～5分程度

* 必須の質問です

3. あなたの学年を教えてください*

1つだけマークしてください。

- 高校1年生 質問 4 にスキップします
 高校2年生 質問 4 にスキップします
 高校3年生 質問 4 にスキップします

- 鳥根県 質問 5 にスキップします
 岡山県 質問 5 にスキップします
 広島県 質問 5 にスキップします
 山口県 質問 5 にスキップします
 徳島県 質問 5 にスキップします
 香川県 質問 5 にスキップします
 愛媛県 質問 5 にスキップします
 高知県 質問 5 にスキップします
 福岡県 質問 5 にスキップします
 佐賀県 質問 5 にスキップします
 長崎県 質問 5 にスキップします
 熊本県 質問 5 にスキップします
 大分県 質問 5 にスキップします
 宮崎県 質問 5 にスキップします
 鹿児島県 質問 5 にスキップします
 沖縄県 質問 5 にスキップします

進学先・就職先についての質問です

5. 進学先は、地元を希望しますか ※市区町村、都道府県にこだわらずあなたが「地元」と考える範囲でお答えください*

1つだけマークしてください。

- 希望する
 どちらかといえば希望する
 どちらかといえば希望しない
 希望しない

4. あなたの住んでいる都道府県を教えてください*

1つだけマークしてください。

- 北海道 質問 5 にスキップします
 青森県 質問 5 にスキップします
 岩手県 質問 5 にスキップします
 宮城県 質問 5 にスキップします
 秋田県 質問 5 にスキップします
 山形県 質問 5 にスキップします
 福島県 質問 5 にスキップします
 茨城県 質問 5 にスキップします
 栃木県 質問 5 にスキップします
 群馬県 質問 5 にスキップします
 埼玉県 質問 5 にスキップします
 千葉県 質問 5 にスキップします
 東京都 質問 5 にスキップします
 神奈川県 質問 5 にスキップします
 新潟県 質問 5 にスキップします
 富山県 質問 5 にスキップします
 石川県 質問 5 にスキップします
 福井県 質問 5 にスキップします
 山梨県 質問 5 にスキップします
 長野県 質問 5 にスキップします
 岐阜県 質問 5 にスキップします
 静岡県 質問 5 にスキップします
 愛知県 質問 5 にスキップします
 三重県 質問 5 にスキップします
 滋賀県 質問 5 にスキップします
 京都府 質問 5 にスキップします
 大阪府 質問 5 にスキップします
 兵庫県 質問 5 にスキップします
 奈良県 質問 5 にスキップします
 和歌山県 質問 5 にスキップします
 鳥取県 質問 5 にスキップします

6. 就職先は、地元を希望しますか*

1つだけマークしてください。

- 希望する
 どちらかといえば希望する
 どちらかといえば希望しない
 希望しない

大学についての質問です

7. あなたが大学で学んでみたい分野を教えてください（複数回答可）*

当てはまるものをすべて選択してください。

- 保育・幼児教育系
 学校教育系
 人文学系（文化、文学、語学、心理学等）
 社会学系（国際、法・経済、観光・ビジネス等）
 医、看護、薬学系
 栄養系（食品、食物含）
 被服系
 福祉系
 理工学系（農学、情報学含）
 その他（例：体育・スポーツ、芸術など）
 わからない

質問 8 にスキップします

幼稚園教諭や保育士についての質問です

8. 幼稚園教諭や保育士は、指定の大学等で必要な単位を修得することで得られる免許・資格です。このことを知っていましたか*

1つだけマークしてください。

- 知っていた
 知らなかった

9. これまで、就きたい職業として「幼稚園教諭・保育士」を考えたことはありますか *

1つだけマークしてください。

- 現在も就きたい職業の一つである 質問 16 にスキップします
- 候補の一つだったが、現在は考えていない 質問 10 にスキップします
- 考えたことはない 質問 14 にスキップします

『候補の一つだったが、現在は考えていない』と答えた方に質問です

10. 「幼稚園教諭・保育士」の職から気持ちが離れたのはいつごろですか *

1つだけマークしてください。

- 小学校（低学年）
- 小学校（中学年）
- 小学校（高学年）
- 中学校
- 高等学校

11. 「幼稚園教諭・保育士」の職から気持ちが離れた理由にはどのようなものがありますか（複数回答可） *

当てはまるものをすべて選択してください。

- 他にやりたい仕事があったから
- 自分の適性を考えたから
- 責任が重そうだから
- 心身ともに大変そうだから
- 給与が低そうだから
- 昇進等が期待できなさそうだから
- 親や家族から反対されたから
- その他: _____

12. あなたが進学先を決めるときに重視することを教えてください（複数回答可） *

当てはまるものをすべて選択してください。

- 学べること、カリキュラム
- 取得できる免許や資格
- 学力・偏差値
- 入試制度
- 学費・奨学金
- 留學制度
- 就職先、就職率
- 校風やキャンパスの雰囲気
- 施設・設備
- 交通の便
- 教員のプロフィール、教員の充実
- 部活やサークル
- 他者のすすめ（家族、高校の先生、塾の先生など）
- 同じ学校の出身者や知人がいる
- その他: _____

13. 近年、「幼稚園教諭・保育士」の職は、働き方改革や処遇改善が大きく進んでいます。これらが進んだ場合、再び「幼稚園教諭・保育士」を目指す可能性はありますか *

1つだけマークしてください。

- とてもある
- どちらかといえばある
- どちらともいえない
- どちらかといえばない
- まったくない

質問 20 にスキップします

『考えたことはない』と答えた方に質問です

14. あなたが進学先を決めるときに重視することを教えてください（複数回答可） *

当てはまるものをすべて選択してください。

- 学べること、カリキュラム
- 取得できる免許や資格
- 学力・偏差値
- 入試制度
- 学費・奨学金
- 留學制度
- 就職先、就職率
- 校風やキャンパスの雰囲気
- 施設・設備
- 交通の便
- 教員のプロフィール、教員の充実
- 部活やサークル
- 他者のすすめ（家族、高校の先生、塾の先生など）
- 同じ学校の出身者や知人がいる
- その他: _____

15. 近年、「幼稚園教諭・保育士」の職は、働き方改革や処遇改善が大きく進んでいます。これらが進んだ場合、「幼稚園教諭・保育士」を目指す可能性はありますか *

1つだけマークしてください。

- とてもある
- どちらかといえばある
- どちらともいえない
- どちらかといえばない
- まったくない

質問 21 にスキップします

『現在も就きたい職業の一つである』と答えた方に質問です

16. あなたが進学先を決めるときに重視することを教えてください（複数回答可） *

当てはまるものをすべて選択してください。

- 学べること、カリキュラム
- 取得できる免許や資格
- 学力・偏差値
- 入試制度
- 学費・奨学金
- 留學制度
- 就職先、就職率
- 校風やキャンパスの雰囲気
- 施設・設備
- 交通の便
- 教員のプロフィール、教員の充実
- 部活やサークル
- 他者のすすめ（家族、高校の先生、塾の先生など）
- 同じ学校の出身者や知人がいる
- その他: _____

17. 「幼稚園教諭・保育士」のための進学先を選ぶ時に重視することを教えてください（複数回答可） *

当てはまるものをすべて選択してください。

- 4年制で専門学校や短大と異なり深く学べる
- 少人数制である
- 実習先を自分で選べる
- 実習先を大学が選んでくれる
- 実習以外にも保育実践の機会がある
- 保育・幼児教育分野への就職率が高い
- 公務員試験の合格率が高い
- 幼稚園教諭・保育士の両方の免許・資格が取れる
- 就職支援が手厚い
- 初心者や経験者のレベルにあわせたピアノの指導が受けられる
- その他: _____

質問 18 にスキップします

進路（進学先や将来の職業）についての質問です（幼稚園教諭・保育士が候補の方向け）

18. 進路（進学先や将来の職業）を考える上で参考にしたり影響を受けたりするものを教えてください（複数回答可） *

当てはまるものをすべて選択してください。

- 親（保護者）
 きょうだい
 親（保護者）やきょうだい以外の親族
 学校の先生
 塾の先生
 先輩
 友達
 新聞・雑誌
 テレビ
 インターネットやSNS
 その他: _____

19. 将来、「幼稚園教諭・保育士」として働きたいと考えている就職先を教えてください（複数回答可） *

※近年増えている認定こども園に就職するには、両方の免許・資格が必要です

当てはまるものをすべて選択してください。

- 公立の幼稚園・保育所・こども園（公務員）
 私立（企業や院内含む）の幼稚園・保育所・こども園
 乳児院・児童養護施設などの児童福祉施設
 その他: _____

質問 22 にスキップします

進路（進学先や将来の職業）についての質問です（過去に幼稚園教諭・保育士志望だった方向け）

20. 進路（進学先や将来の職業）を考える上で参考にしたり影響を受けたりするものを教えてください（複数回答可） *

当てはまるものをすべて選択してください。

- 親（保護者）
 きょうだい
 親（保護者）やきょうだい以外の親族
 学校の先生
 塾の先生
 先輩
 友達
 新聞・雑誌
 テレビ
 インターネットやSNS
 その他: _____

質問 22 にスキップします

進路（進学先や将来の職業）についての質問です（幼稚園教諭・保育士を志望したことがない方向け）

21. 進路（進学先や将来の職業）を考える上で参考にしたり影響を受けたりするものを教えてください（複数回答可） *

当てはまるものをすべて選択してください。

- 親（保護者）
 きょうだい
 親（保護者）やきょうだい以外の親族
 学校の先生
 塾の先生
 先輩
 友達
 新聞・雑誌
 テレビ
 インターネットやSNS
 その他: _____

質問 22 にスキップします

女性の働き方についての質問です

22. 日本のジェンダーギャップ（男女格差）は、146カ国中118位という報告があります。女性が生涯にわたってどこでも働ける資格や専門職に興味はありますか *

1つだけマークしてください。

- とても興味がある
 どちらかといえば興味がある
 どちらでもない
 どちらかといえば興味はない
 まったく興味はない

23. 女子大学では、女性のライフステージに合わせたキャリア教育や支援が充実していると言われています。どの程度魅力を感じますか *

1つだけマークしてください。

- とても魅力を感じる
 どちらかといえば魅力を感じる
 どちらでもない
 どちらかといえば魅力を感じない
 まったく魅力を感じない

和洋女子大学こども発達学科についての質問です

24. 幼児教育・保育を学ぶことができる4年制大学において、幼児教育・保育現場に就職する人は平均50%程度です。和洋女子大学こども発達学科は、毎年75-90%程度が幼児教育・保育現場に就職しています（公立30%※公務員試験合格率90%以上、私立45%以上）。和洋女子大学こども発達学科への志願度はどのくらいですか *

OPEN CAMPUS 2024
 オープンキャンパス2024
 里見祭 (大学祭)
 4/28 (日) 6/9 (日) 7/21 (日) 8/4 (日)
 8/11 (日) 8/25 (日) 9/22 (土) 11/23 (土)

和洋女子大学
 WASEDA GATE TOWER

1つだけマークしてください。

- 第一志望である
 第二志望である
 第三志望である
 第四志望以下だが、志願したい
 志願するつもりはない

アンケートのご回答ありがとうございました。

※大学生用【和洋女子大学】進学や就職についてのアンケート

アンケートの回答にご協力お願いいたします。

所要時間2分～5分程度

* 必須の質問です

3. あなたの住んでいる都道府県を教えてください *

1つだけマークしてください。

- 北海道
- 青森県
- 岩手県
- 宮城県
- 秋田県
- 山形県
- 福島県
- 茨城県
- 栃木県
- 群馬県
- 埼玉県
- 千葉県
- 東京都
- 神奈川県
- 新潟県
- 富山県
- 石川県
- 福井県
- 山梨県
- 長野県
- 岐阜県
- 静岡県
- 愛知県
- 三重県
- 滋賀県
- 京都府
- 大阪府
- 兵庫県
- 奈良県
- 和歌山県

- 鳥取県
- 島根県
- 岡山県
- 広島県
- 山口県
- 徳島県
- 香川県
- 愛媛県
- 高知県
- 福岡県
- 佐賀県
- 長崎県
- 熊本県
- 大分県
- 宮崎県
- 鹿児島県
- 沖縄県

4. 現在在籍している大学は、ご自身の地元ですか※市区町村、都道府県にこだわらずあなたが「地元」と考える範囲でお答えください *

1つだけマークしてください。

- はい
- いいえ

5. 就職先は、地元を希望しますか※市区町村、都道府県にこだわらずあなたが「地元」と考える範囲でお答えください *

1つだけマークしてください。

- 希望する
- どちらかといえば希望する
- どちらかといえば希望しない
- 希望しない

6. 現在在籍している学部・学科・専攻（分野）に、最も近いものを教えてください *

1つだけマークしてください。

- 保育・幼児教育系
- 学校教育系
- 人文学系（文化、文学、語学、心理学等）
- 社会学系（国際、法・経済、観光・ビジネス等）
- 医、看護、薬学系
- 栄養系（食品、食物含）
- 被服系
- 福祉系
- 理工学系（農学、情報学含）
- その他: _____

質問 7 にスキップします

幼稚園教諭や保育士についての質問です

7. 幼稚園教諭や保育士は、指定の大学等で必要な単位を修得することで得られる免許・資格です。このことを知っていましたか *

1つだけマークしてください。

- 知っていた
 知らなかった

8. これまで、就きたい職業として「幼稚園教諭・保育士」を考えたことはありますか *

1つだけマークしてください。

- 現在も就きたい職業の一つである 質問 15 にスキップします
 候補の一つだったが、現在は考えていない 質問 9 にスキップします
 考えたことはない 質問 13 にスキップします

『候補の一つだったが、現在は考えていない』と答えた方に質問です

9. 「幼稚園教諭・保育士」の職から気持ち離れたのはいつごろですか *

1つだけマークしてください。

- 小学校（低学年）
 小学校（中学年）
 小学校（高学年）
 中学校
 高等学校
 大学

10. 「幼稚園教諭・保育士」の職から気持ちが離れた理由にはどのようなものがありますか（複数回答可） *

当てはまるものをすべて選択してください。

- 他にやりたい仕事ができたら
 自分の適性を考えたから
 責任が重そうだから
 心身ともに大変そうだから
 給与が低そうだから
 昇進等が期待できなさそうだから
 親や家族から反対されたから
 その他: _____

11. あなたが受験先を決めるときに重視したことを教えてください（複数回答可） *

当てはまるものをすべて選択してください。

- 学べること、カリキュラム
 取得できる免許や資格
 学力・偏差値
 入試制度
 学費・奨学金
 留學制度
 就職先、就職率
 校風やキャンパスの雰囲気
 施設・設備
 交通の便
 教員のプロフィール、教員の充実
 部活やサークル
 他者のすすめ（家族、高校の先生、塾の先生など）
 同じ学校の出身者や知人がいる
 その他: _____

12. 近年、「幼稚園教諭・保育士」の職は、働き方改革や処遇改善が大きく進んでいます。これらが進んだ場合、再び「幼稚園教諭・保育士」を目指す可能性はありますか *

1つだけマークしてください。

- とてもある
 どちらかといえばある
 どちらともいえない
 どちらかといえばない
 まったくない

質問 18 にスキップします

『考えたことはない』と答えた方に質問です

13. あなたが受験先を決めるときに重視したことを教えてください（複数回答可） *

当てはまるものをすべて選択してください。

- 学べること、カリキュラム
 取得できる免許や資格
 学力・偏差値
 入試制度
 学費・奨学金
 留學制度
 就職先、就職率
 校風やキャンパスの雰囲気
 施設・設備
 交通の便
 教員のプロフィール、教員の充実
 部活やサークル
 他者のすすめ（家族、高校の先生、塾の先生など）
 同じ学校の出身者や知人がいる
 その他: _____

14. 近年、「幼稚園教諭・保育士」の職は、働き方改革や処遇改善が大きく進んでいます。これらが進んだ場合、「幼稚園教諭・保育士」を目指す可能性はありますか *

1つだけマークしてください。

- とてもある
 どちらかといえばある
 どちらともいえない
 どちらかといえばない
 まったくない

質問 19 にスキップします

『現在も就きたい職業の一つである』と答えた方に質問です

15. あなたが受験先を決めるときに重視したことを教えてください（複数回答可） *

当てはまるものをすべて選択してください。

- 学べること、カリキュラム
 取得できる免許や資格
 学力・偏差値
 入試制度
 学費・奨学金
 留學制度
 就職先、就職率
 校風やキャンパスの雰囲気
 施設・設備
 交通の便
 教員のプロフィール、教員の充実
 部活やサークル
 他者のすすめ（家族、高校の先生、塾の先生など）
 同じ学校の出身者や知人がいる
 その他: _____

16. 「幼稚園教諭・保育士」のための進学先を選ぶ時に重視したことを教えてください*
(複数回答可)

当てはまるものをすべて選択してください。

- 4年制専門学校や短大と異なり深く学べる
 少人数制である
 実習先を自分で選べる
 実習先を大学が選んでくれる
 実習以外にも保育実践の機会がある
 保育・幼児教育分野への就職率が高い
 公務員試験の合格率が高い
 幼稚園教諭・保育士の両方の免許・資格が取れる
 就職支援が手厚い
 初心者や経験者のレベルにあわせたピアノの指導が受けられる
 その他: _____

質問 17 にスキップします

進路（進学先や将来の職業）についての質問です（幼稚園教諭・保育士が候補の方向け）

17. 進路（進学先や将来の職業）を考える上で参考にしたり影響を受けたりする*
ものを教えてください（複数回答可）

当てはまるものをすべて選択してください。

- 親（保護者）
 きょうだい
 親（保護者）やきょうだい以外の親族
 学校の先生
 塾の先生
 先輩
 友達
 新聞・雑誌
 テレビ
 インターネットやSNS
 その他: _____

質問 20 にスキップします

進路（進学先や将来の職業）についての質問です（過去に幼稚園教諭・保育士志望だった方向け）

18. 進路（進学先や将来の職業）を考える上で参考にしたり影響を受けたりする*
ものを教えてください（複数回答可）

当てはまるものをすべて選択してください。

- 親（保護者）
 きょうだい
 親（保護者）やきょうだい以外の親族
 学校の先生
 塾の先生
 先輩
 友達
 新聞・雑誌
 テレビ
 インターネットやSNS
 その他: _____

質問 21 にスキップします

進路（進学先や将来の職業）についての質問です（幼稚園教諭・保育士を志望したことがない方向け）

19. 進路（進学先や将来の職業）を考える上で参考にしたり影響を受けたりする*
ものについて、次の項目からあてはまるものを教えてください（複数回答可）

当てはまるものをすべて選択してください。

- 親（保護者）
 きょうだい
 親（保護者）やきょうだい以外の親族
 学校の先生
 塾の先生
 先輩
 友達
 新聞・雑誌
 テレビ
 インターネットやSNS
 その他: _____

質問 21 にスキップします

就職先についての質問です（幼稚園教諭・保育士志望の方向け）

20. 将来、「幼稚園教諭・保育士」として働きたいと考えている就職先を教えてください*
(複数回答可)

※近年増えている認定こども園に就職するには、両方の免許・資格が必要です

当てはまるものをすべて選択してください。

- 公立の幼稚園・保育所・こども園（公務員）
 私立（企業や院内含む）の幼稚園・保育所・こども園
 乳児院・児童養護施設などの児童福祉施設
 その他: _____

女性の働き方についての質問です

21. 日本のジェンダーギャップ（男女格差）は、146カ国中118位という報告があります。女性が生涯にわたってどこでも働ける資格や専門職に興味はありますか

1つだけマークしてください。

- とても興味がある
 どちらかといえば興味がある
 どちらでもない
 どちらかといえば興味はない
 まったく興味はない

アンケートのご回答ありがとうございました。

和洋女子大こども発達学科 企画後アンケート (2024大キャリア)

今回の企画は、和洋女子大学 こども発達学科が 文科省委託 令和6年度 大学等を通じたキャリア形成支援による幼児教育の「職」の魅力向上・発信事業 (幼児教育の「職」の魅力発信・向上事業)の一部として実施したものです

ohgami.wayo@gmail.com アカウントを切り替える

共有なし

* 必須の質問です

あなた自身についておたずねします *

- 中学生
 高校生
 大学生
 その他: _____

あなたの学年をお答え下さい *

- 1年生
 2年生
 3年生
 4年生
 その他: _____

今回の企画に参加してみたいかでしたか

幼児教育への興味や関心が高まった *

1 2 3 4 5
とてもあてはまる 全くあてはまらない

幼児教育の「職」(幼稚園の先生など)に魅力を感じた *

1 2 3 4 5
とてもあてはまる 全くあてはまらない

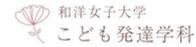
今後同様の企画があれば参加してみたい *

1 2 3 4 5
とてもあてはまる 全くあてはまらない

感じたこと・考えたことを自由にお書き下さい

回答を入力

以上で回答は終了です ありがとうございます



送信

フォームをクリア

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。 - 利用規約 - プライバシーポリシー

Does this form look suspicious? レポート

Google フォーム

和洋女子大学こども発達学科 卒業生 2024年度版

* 必須

1. お名前 (フルネーム) ※旧姓で記載 (新姓はカッコで記載) *

回答を入力してください

2. 現在、卒業してから何年目ですか? *

回答を入力してください

3. 現在の所属 *

回答を入力してください

4. 大学訪問の主な目的 *

回答を入力してください

5. 卒業後、自身のキャリアについて悩んだことがあれば、①時期と②内容を簡単に教えてください

回答を入力してください

7. 今日の感想 (あれば)

回答を入力してください

8. 広報・教育活動・キャリア支援等で、学科から皆さんにご協力をお願いする場合があります。差し支えなければ、ご連絡先を教えてください (Email)

回答を入力してください

9. 今後、学科から、保育・幼児教育等に関わる研修等のご案内があったら希望しますか?

- はい
 いいえ

特設ページ



<https://www.youhosensei.wayo.ac.jp/>

学科ページ



https://www.wayo.ac.jp/academics/humanities/child_development

文部科学省 令和6年度「大学等を通じたキャリア形成支援による幼児教育の「職」の魅力向上・発信事業（「職」の魅力向上と人材確保の好循環を生み出すモデル創出事業）」

「地元で「学ぶ・続ける」幼児教育ーライフステージに合わせたアプローチー」
事業成果報告書

令和7年（2025年）1月31日発行

編集 和洋女子大学 人文学部 こども発達学科

発行 和洋女子大学

〒272-8533 千葉県市川市国府台 2-3-1

